

第2章 唐津市のこども・子育てを取り巻く環境

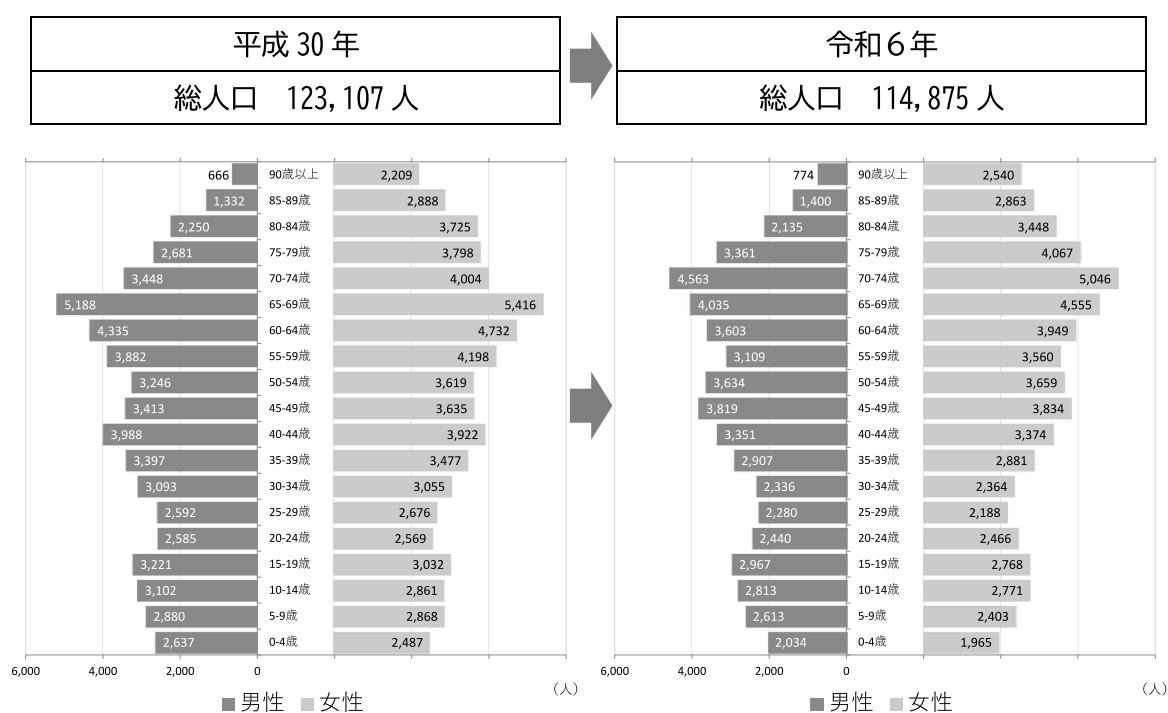
1 人口・世帯

(1) 人口構成の推移

唐津市の総人口は平成30年の123,107人から令和6年の114,875人へと減少しており、人口構成を比較すると、ボリュームゾーンが男女ともに65～69歳から70～74歳に移っていることがわかります。

0～4歳、5～9歳、10～14歳、15～19歳の各層が男女ともに減少し、少子化の進行が深刻な状況にあるといえます。

▼ 年齢別人口（人口ピラミッド）の推移

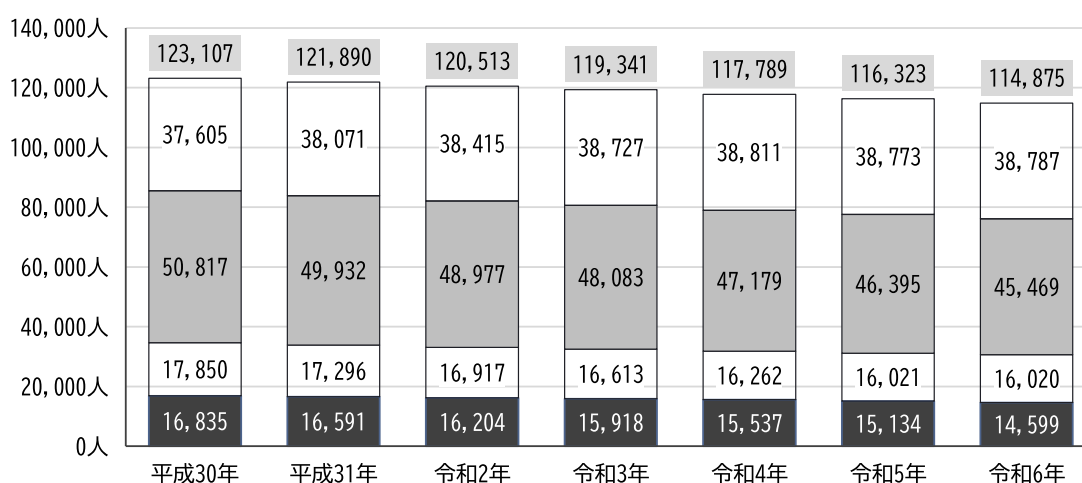


(住民基本台帳 左：平成30年／右：令和6年 各年3月末日)

(2) 総人口・年齢層別人口の推移

総人口は平成30年～令和6年まで継続的に減少しています。平成30年を100とした場合の令和6年の割合は93.3（8,232人の減少）となっています。年齢層別にみると、年少人口（0～14歳）は86.7（2,236人の減少）、生産年齢人口（15～64歳）のうち15～30歳は89.7（1,830人の減少）、31～64歳は89.5（5,348人の減少）となっており、老年人口（65歳以上）は103.1（1,182人の増加）となり、年少人口の減少幅が大きくなっています。年齢層別の人口構成割合の推移でも、年少人口の下降と老年人口の上昇が続いており、少子高齢化が進行しているとわかります。

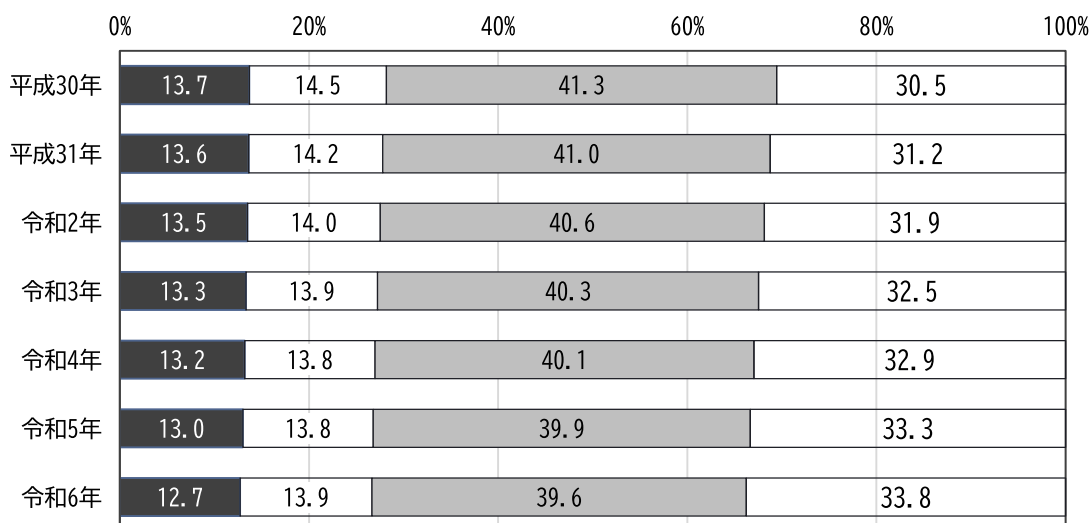
▼ 総人口および年齢層別人口の推移



■年少人口(0～14歳) □生産年齢人口(15～30歳) □生産年齢人口(31～64歳) □老年人口(65歳以上) 総人口

(住民基本台帳 各年3月末日)

▼ 年齢層別人口構成割合の推移



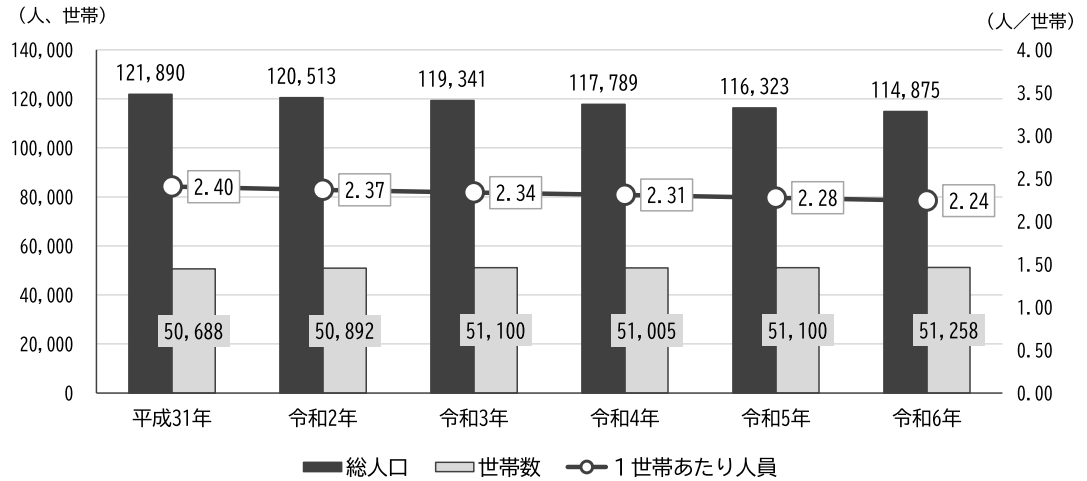
■年少人口(0～14歳) □生産年齢人口(15～30歳) □生産年齢人口(31～64歳) □老年人口(65歳以上)

(3) 世帯数・1世帯あたり人員

世帯数は平成31年から令和3年にかけて増加し、令和4年に一旦減少した後、再び増加に転じています。

対して、総人口は減少が続いているため、1世帯あたりの人員数も継続的に減少する状況となっています。

▼ 総人口と世帯数、1世帯あたり人員の推移



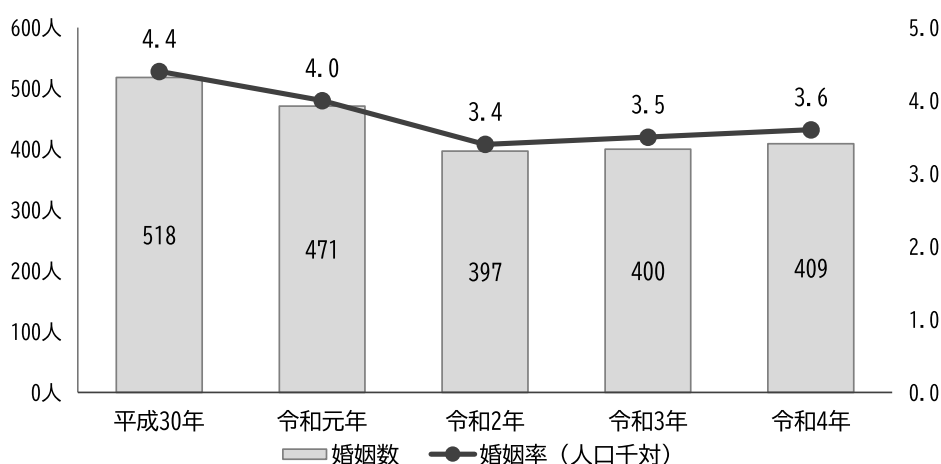
(人口：住民基本台帳、世帯数：市民課 各年3月末日)

2 結婚・出生・女性の就労

(1) 婚姻数・婚姻率

婚姻数は令和2年まで減少していましたが、その後増加傾向に転じています。婚姻率（人口千人あたりの婚姻件数）も婚姻数の増減状況に合うかたちで、令和2年以降上昇の傾向にありますが、平成30年の実績には届いていません。

▼ 婚姻数・婚姻率の推移

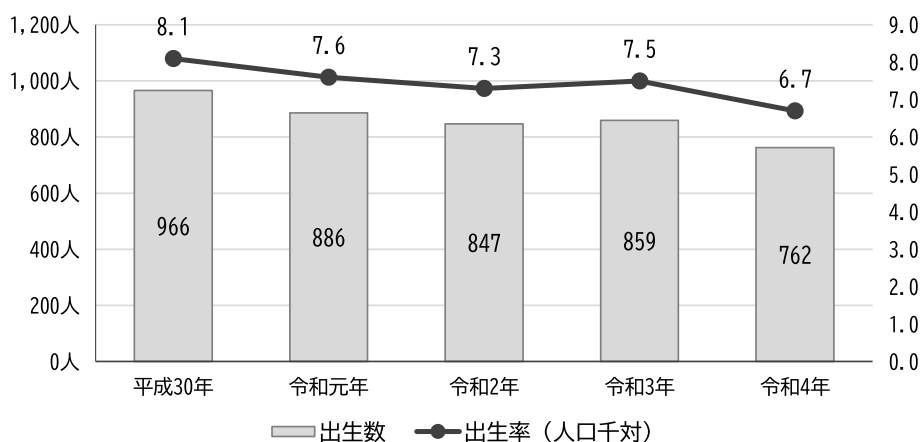


（佐賀県人口動態統計）

(2) 出生数・出生率

平成30年以降の出生数は、令和3年に一旦増加しましたが、総じて減少傾向で推移しています。出生率（人口千人あたりの出生数）¹は平成30年の8.1‰が最も高く、令和4年では6.7‰と、総じて下降傾向で推移しています。

▼ 出生数・出生率の推移



（佐賀県人口動態統計）

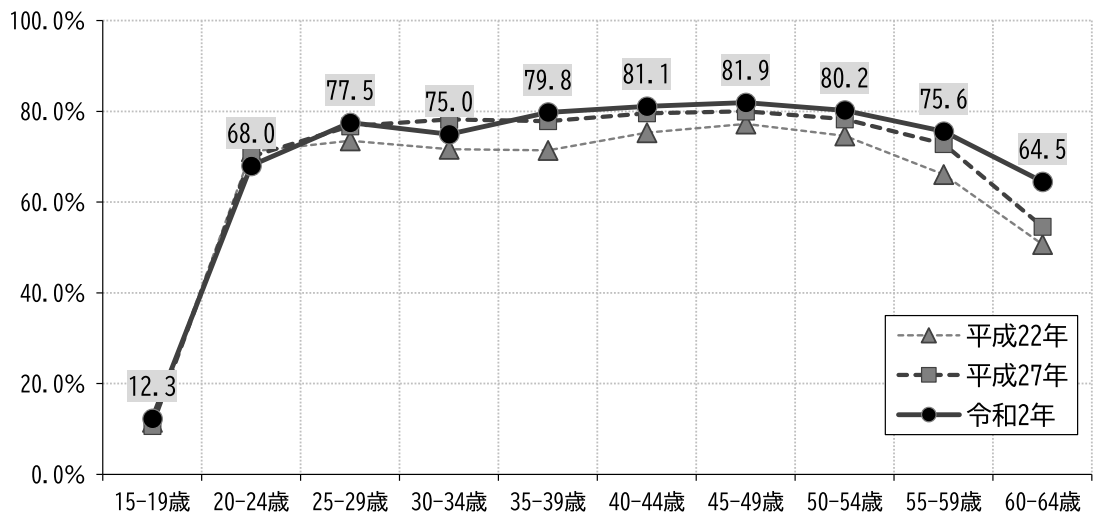
¹ 出生率：出生率は人口千人あたりの出生数のため百分率の%（パーセント）ではなく、千分率‰（パーミル）の単位で表される。（婚姻率も同様）

(3) 女性の就労状況

年齢別にみた女性の就労状況では、令和2年において、20歳代後半の77.5%が30歳代前半で75.0%に下がり、30歳代後半で79.8%に上昇しています。いわゆるM字カーブの状況が現れていますが、30歳代前半での下降は緩やかです。

年による推移をみると、20歳代後半以降の各年齢層とも平成22年より労働力率が上昇しており、結婚・出産・子育て期と考えられる女性も含めて、女性の就労が増えていることがわかります。

▼ 女性の年齢別労働力率の推移



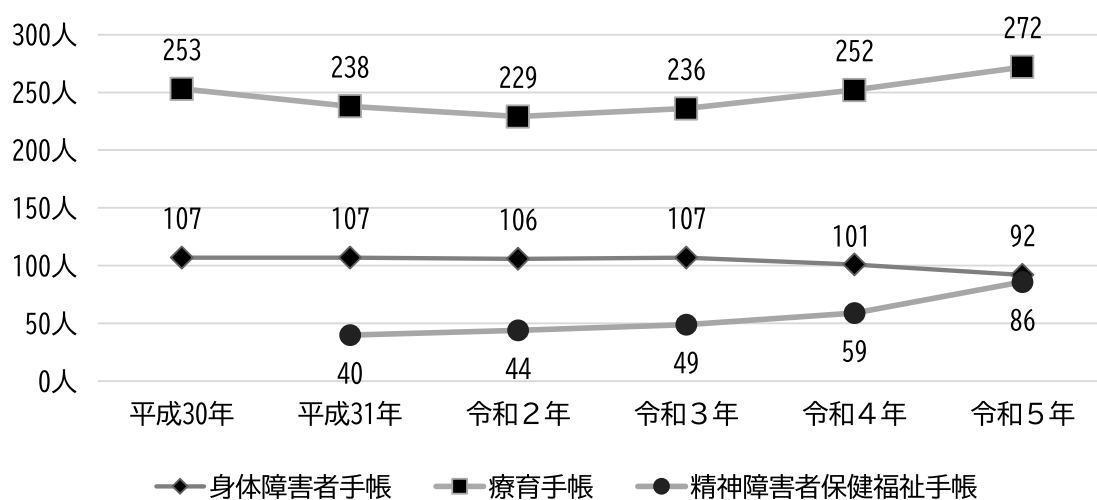
(国勢調査)

3 こどもを取り巻く様々な状況

(1) 18歳未満の障がい者手帳所持者

18歳未満の障がい者手帳の所持者数の推移をみると、療育手帳は令和2年以降増加の傾向にあり、身体障害者手帳は令和3年までほぼ横ばいであったものがその後減少傾向となっています。精神障害者保健福祉手帳の所持者は平成31年以降増加傾向で推移しています。

▼ 18歳未満の障がい者手帳所持者数の推移



(障がい者支援課 各年3月末日)

※精神障害者保健福祉手帳は平成30年データなし

(2) 外国につながる世帯の状況

全世帯数に対する外国人のいる世帯の割合は、年により増減がみられるものの、総じて上昇傾向にあり、平成31年の0.96%が令和6年には1.54%となっています。

▼ 世帯数と外国人のいる世帯数と割合の推移

	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
世帯数(A)	50,688	50,892	51,100	51,005	51,100	51,258
外国人のいる世帯数(B)	487	583	593	488	570	790
(A)に占める(B)の割合	0.96%	1.15%	1.16%	0.96%	1.12%	1.54%

単位：世帯
(市民課)

(3) 生活保護世帯に属するこどもの進学率

生活保護世帯に属するこどもの進学率は、国のこども大綱においてこども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標にも設定されているものです。

唐津市では年度により大きく増減があり、一律の上昇・下降の傾向はみられません。

▼ 生活保護世帯に属するこどもの進学率の推移

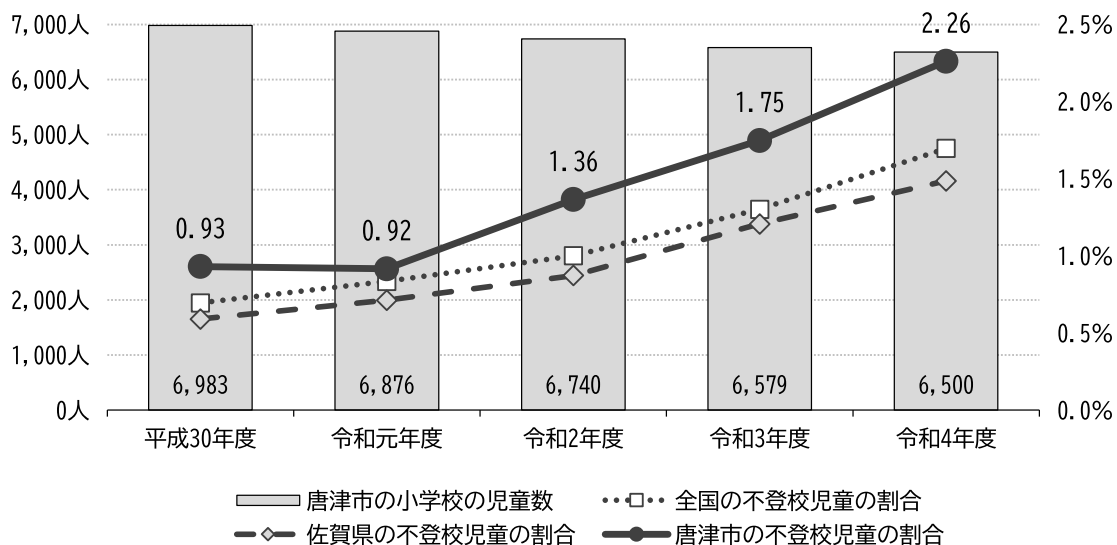
	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
高校等進学率	50.0%	100.0%	83.3%	100.0%	75.0%	75.0%
大学等進学率	66.7%	11.1%	37.5%	50.0%	25.0%	75.0%

(生活保護課)

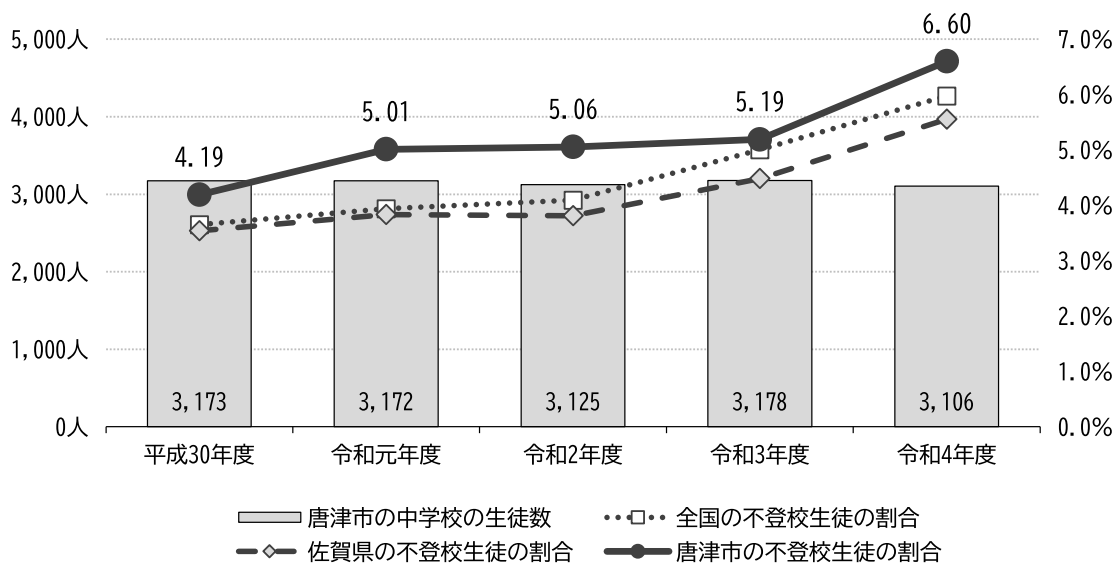
(4) 小・中学校における不登校児童・生徒数

小学校の児童数は減少が続いており、中学校の生徒数は年度による増減を繰り返しながら少しずつ減少傾向です。全児童・生徒数に対する不登校の児童・生徒数の割合は小学校・中学校とも上昇の傾向にあり、小学校・中学校ともに全国および佐賀県よりも高い水準で推移しています。

▼ 小学校の不登校児童の割合の推移



▼ 中学校の不登校生徒の割合の推移



(全国・佐賀県：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査／唐津市：学校教育課)

4 保育所・認定こども園・幼稚園等の設置状況

(1) 保育所

施設名	利用定員
唐津地区	
若葉保育所	30人
和多田保育園	270人
唐房保育園	80人
町田保育園	140人
町田保育園山田分園	29人
青葉保育園	140人
佐志保育園	80人
佐志保育園大良分園	20人
西唐津保育園	40人
湊保育園	40人
湊保育園屋形石分園所	15人
あけぼの保育園	110人
外町保育園	120人
長松保育園	110人
長松保育園竹木場分園	29人
長松保育園見借分園	20人
清和保育園	70人
大島保育園	45人
山本保育園	120人
城内シオン保育園	80人
くりのみ保育園	120人
くりのみ保育園半田分園	29人
たんぼぼ保育園	60人
こども塾神田園	40人

施設名	利用定員
浜玉地区	
平原保育園	50人
双葉保育園	130人
親和保育園	70人
北波多地区	
若竹保育所	30人
北波多第二保育園	40人
ひかり保育園	90人
肥前地区	
やまのもり切木保育園	30人
うみのもり高串保育園	30人
鎮西地区	
なごや保育園	20人
打上保育園	50人
呼子地区	
殿の浦愛児園	30人
七山地区	
七山保育園	30人

※若葉保育所・若竹保育所は、公立の保育所です。

その他の保育所、認定こども園、幼稚園、地域型保育事業所は全て私立の施設です。

(2) 認定こども園

施設名	利用定員
唐津地区	
昭和幼稚園・なかよし保育園	255人（保育所部門）
	105人（幼稚園部門）
すみれ幼稚園	90人（保育所部門）
	60人（幼稚園部門）
虹の森こども園	140人（保育所部分）
	15人（幼稚園部分）
かがみこども園	120人（保育所部分）
	15人（幼稚園部分）
唐津ルーテルこども園	95人（保育所部門）
	60人（幼稚園部門）
リョーユー幼稚園	270人（保育所部門）
	60人（幼稚園部門）
唐津カトリック幼稚園	45人（保育所部門）
	45人（幼稚園部門）

施設名	利用定員
浜玉地区	
浜崎幼稚園	65人（保育所部分）
	25人（幼稚園部分）
厳木地区	
厳木さくらんぼ	50人（保育所部分）
	10人（幼稚園部分）
相知地区	
相知エルアンこども園	120人（保育所部門）
	15人（幼稚園部門）
肥前地区	
ひぜんこども園	50人（保育所部門）
	13人（幼稚園部門）
呼子地区	
呼子中央こども園	30人（保育所部門）
	8人（幼稚園部門）
呼子こども園	20人（保育所部門）
	15人（幼稚園部門）

(3) 幼稚園

施設名	利用定員
唐津地区	
エルアン幼稚園	120人

(4) 地域型保育事業所

施設名	利用定員
唐津地区	
保育所しいの木 （事業所内保育）	14人（従業員枠）
	5人（非従業員枠）
なないろ保育園 （事業所内保育）	16人（従業員枠）
	9人（非従業員枠）

施設名	利用定員
鎮西地区	
馬渡島保育園 （小規模保育）	7人
呼子地区	
小川島保育園 （小規模保育）	7人

5 地域子ども・子育て支援事業の状況

「地域子ども・子育て支援事業」で実施されている各事業の、これまでの実施内容・状況は以下のとおりです。

事業	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
地域子育て支援拠点事業 (人回/年延)	33,512	24,341	23,217	32,044
妊婦健康診査 (件=健診票交付数/年)	11,944	12,126	11,027	10,762
乳児家庭全戸訪問事業 (人/年延)	827	763	796	669
養育支援訪問事業 (人/年延)	61	44	51	73
子育て短期支援事業 (人/年延)	69	50	90	213
ファミリー・サポート・センター事業 (人日/年延)	557	742	896	1,199
一時預かり事業 (人/年延)				
認定こども園(幼稚園型)	29,600	29,208	25,616	23,471
保育所	3,739	3,690	3,494	3,753
延長保育事業 (人/年)	90,621	88,114	85,172	82,821
病児・病後児保育事業 (人/年延)	206	47	43	199
放課後児童クラブ(放課後児童健全育成事業) (人=各年4月時利用者数)				
1年生	599	578	556	571
2年生	550	549	496	511
3年生	474	455	419	403
4年生	315	292	279	256
5年生	165	175	113	157
6年生	102	84	92	70

6 市民等アンケートの結果概要

本計画の策定にあたり、教育・保育サービス等の利用状況や利用意向、こどもの生活状況や、家庭の状況、学校での状況などを把握するため市民等へのアンケートを実施しました。

(1) 子ども・子育て支援に関するアンケート調査

●調査対象

就学前児童（0歳～5歳）が属する世帯／小学生児童（1年生～6年生）が属する世帯

●調査時期

令和6年2月28日～3月22日

●調査方法

郵送配付・回収

●配付・回収状況

	配付数	回収数	回収率
就学前児童(0歳～5歳)が属する世帯	2,000票	1,018票	50.9%
小学生児童(1年生～6年生)が属する世帯	2,000票	981票	49.1%

(2) こどもの生活アンケート

●調査対象

市内小学5年生の保護者と児童／市内中学2年生の保護者と生徒

●調査時期

令和6年2月15日～2月29日

●調査方法

学校経由で配付・回収、こどもは学校でWEBアンケート回答

●配付・回収状況

	配付数	有効回収数	有効回収率
小5保護者	1,089票	912票	83.7%
中2保護者	1,107票	801票	72.4%
小5児童	1,089票	958票	88.0%
中2生徒	1,107票	802票	72.4%

(3) こどもの生活（ヤングケアラー）についてのアンケート

●調査対象

市内小・中学校の小5・中2担任・副担任教諭および養護教諭

●調査方法

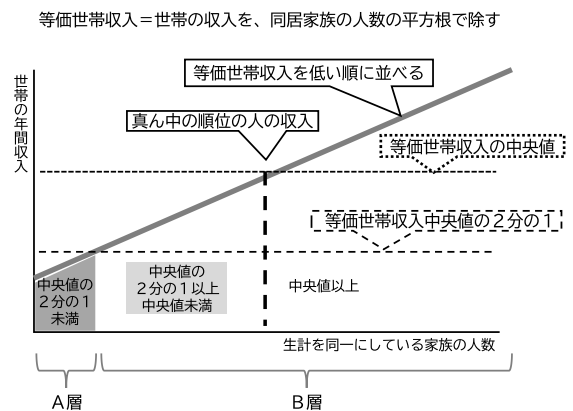
学校経由でメール依頼 WEB アンケート回答

●回答状況

	回答数
市内小・中学校の小5・中2担任・副担任教諭および養護教諭	125票

(4) こどもの生活アンケートにおける経済的な状況の分類

こどもの生活アンケートの保護者票では「世帯全体のおおよその年間収入（税込）」の設問と、「生計を同一にしている家族の人数」の設問を設けています。ここから、等価世帯収入の中央値を求め、「中央値の2分の1未満」に属する家庭を「A層」、「中央値以上」および「中央値の2分の1以上中央値未満」に属する家庭を「B層」と分類し、経済的な状況別としてクロス集計を行っています。



(5) 結果概要の構成

本計画は、子ども・子育て支援法を根拠法令とするものですが、唐津市において安心して子どもを生き育てる環境や、全てのこどもがすこやかに成長できる社会を実現させることを目指すものであることから、アンケート種別・設問順等ではなく、国の「こども大綱」の「こども施策に関する重要事項」等の内容を参考に結果の概要をまとめています。

なお、以下において、調査名は次のように表記しています。

- 「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」
 就学前児童（0歳～5歳）の保護者：【就学前保護者】
 小学生児童（1年生～6年生）の保護者：【小学生保護者】
- 「こどもの生活アンケート」
 小学5年生・中学2年生の保護者：【小5・中2保護者】
 小学5年生・中学2年生：【小5】【中2】
- 「こどもの生活（ヤングケアラー）についてのアンケート」：【学校（YC）】

必要に応じて、平成30年度に実施したアンケート調査（以下「前回調査」といいます。）との比較を行っています。また、設問文や選択肢は一部省略している場合があります。

こどもが権利の主体であること

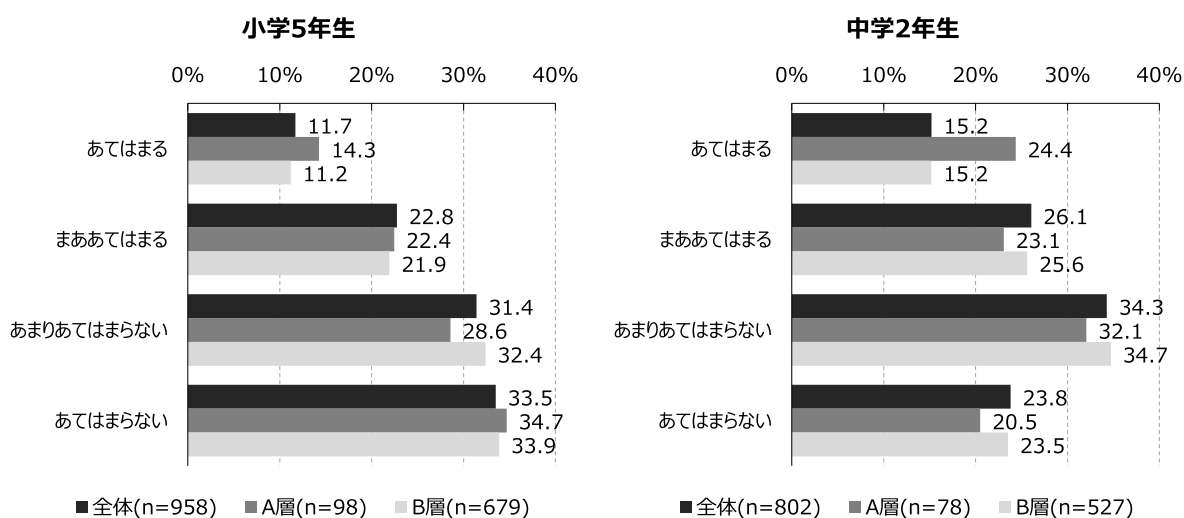
こどもの不安感

【小5】【中2】

問 次の質問について、あなたはあてはまると思えますか。
心配ごとが多く、いつも不安だ。

小学5年生では「あてはまらない」が33.5%、「あまりあてはまらない」が31.4%、「まああてはまる」が22.8%。中学2年生では「あまりあてはまらない」が34.3%、「まああてはまる」が26.1%、「あてはまらない」が23.8%。

「あてはまる」は、中学2年生でA層が全体より9.2ポイント多くなっている。



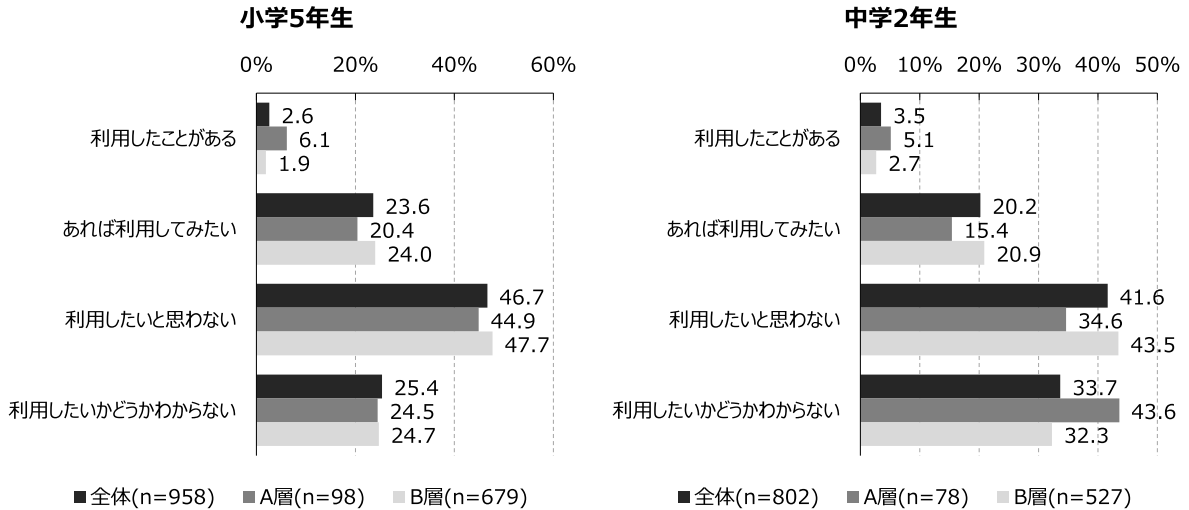
- 不安感は総じて学年の高いほうが大きく、「心配ごとが多く、いつも不安」にあてはまるとの回答は経済的状況のよくない家庭で多い。

何でも相談できる場所の利用経験と利用意向

【小5】【中2】

問 次のような場所を利用したことがありますか。(自分や友人の家、学校は含まない)
何でも相談できる場所(電話やネット相談をふくむ)

小学5年生では、「利用したいと思わない」が46.7%、「利用したいかわからない」が25.4%、「あれば利用してみたい」が23.6%。中学2年生では、「利用したいと思わない」が41.6%、「利用したいかわからない」が33.7%、「あれば利用してみたい」が20.2%。



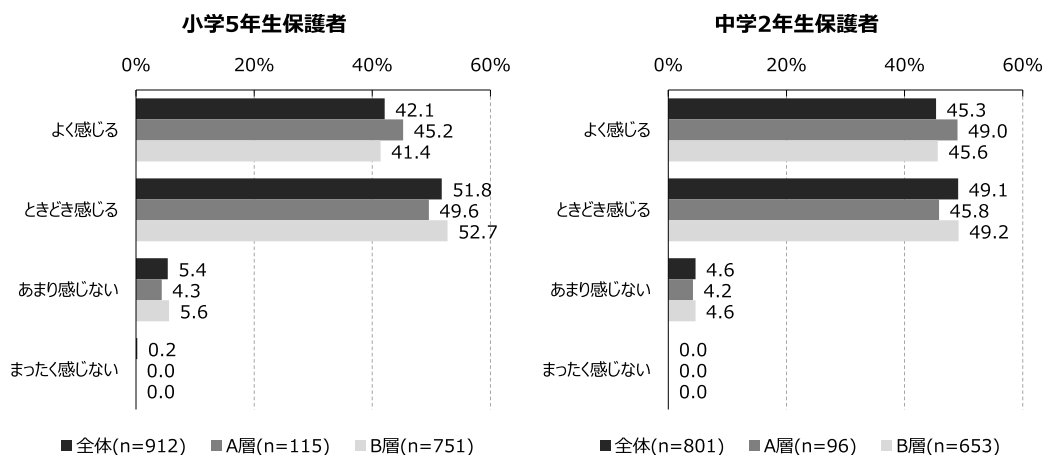
- 何でも相談できる場所について、「あれば利用してみたい」も「利用したいと思わない」も、経済的状況のよくない家庭では全体より少ない。
- 「利用したいかわからない」が小学5年生で25.4%、中学2年生で33.7%となっている。「何でも相談できる場所」というものがどのような場所なのか、こどもにはイメージできていないことも考えられる。

こどもの個性や意見の尊重

【小5・中2保護者】

問 こどもとの生活の中で、こどもの個性や意見を尊重できていると感じることがありますか。

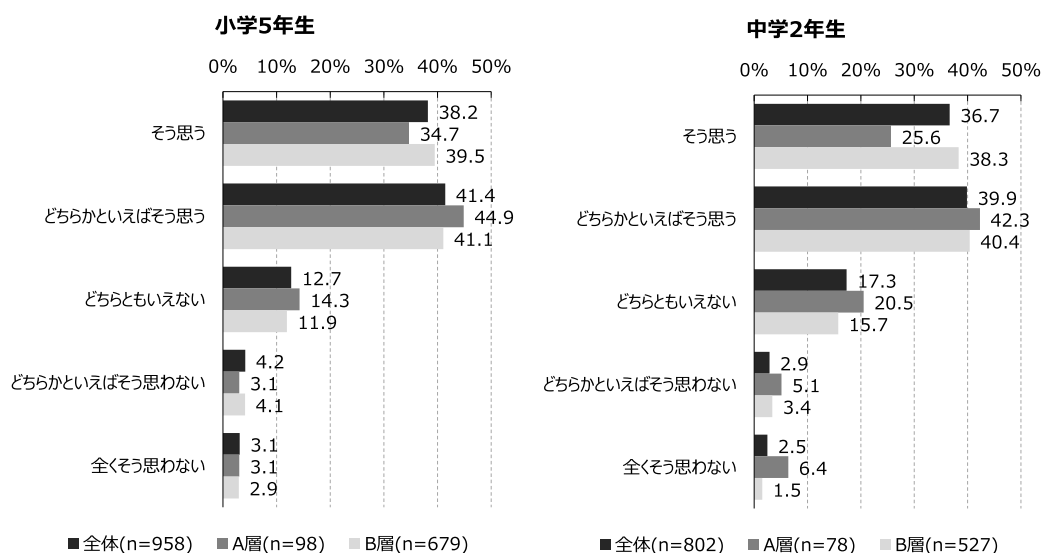
小学5年生保護者では「ときどき感じる」が51.8%、「よく感じる」が42.1%。中学2年生保護者では「ときどき感じる」が49.1%、「よく感じる」が45.3%。



【小5】【中2】

問 自分の意見や考えは、まわりの大人の人にきちんと聞いてもらえていると思いますか。

小学5年生では、「どちらかといえばそう思う」が41.4%、「そう思う」が38.2%、「どちらともいえない」が12.7%。中学2年生では、「どちらかといえばそう思う」が39.9%、「そう思う」が36.7%、「どちらともいえない」が17.3%。「そう思う」は、中学2年生でA層が全体より11.1ポイント少ない。



➤ 保護者もこどもも、総じてこどもの意見が尊重されているという回答になっている。こどもの「どちらともいえない」は、自分の意見や考えに対する大人の反応がその時々で異なるという感触をこどもが持っていることの表れとも考えられる。

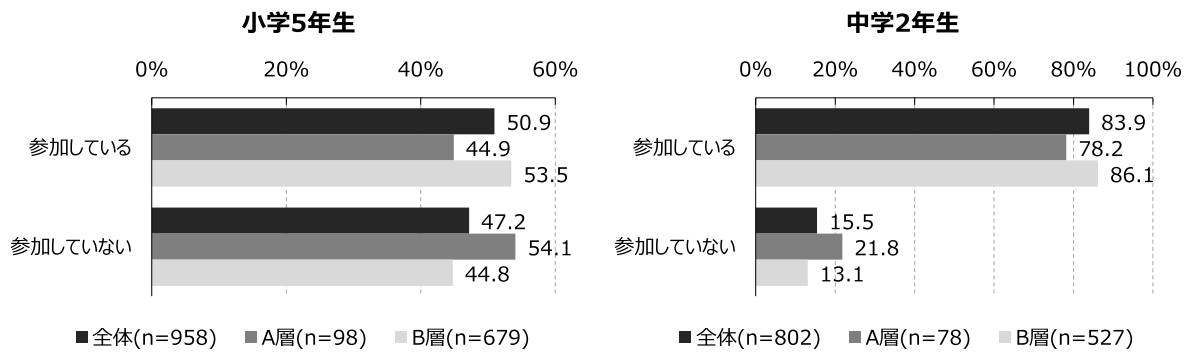
多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり

地域のスポーツクラブ、学校の部活動への参加

【小5】【中2】

問 地域のスポーツクラブ、学校の部活動に参加していますか。

小学5年生では「参加している」が50.9%、「参加していない」が47.2%。中学2年生では「参加している」が83.9%、「参加していない」が15.5%。

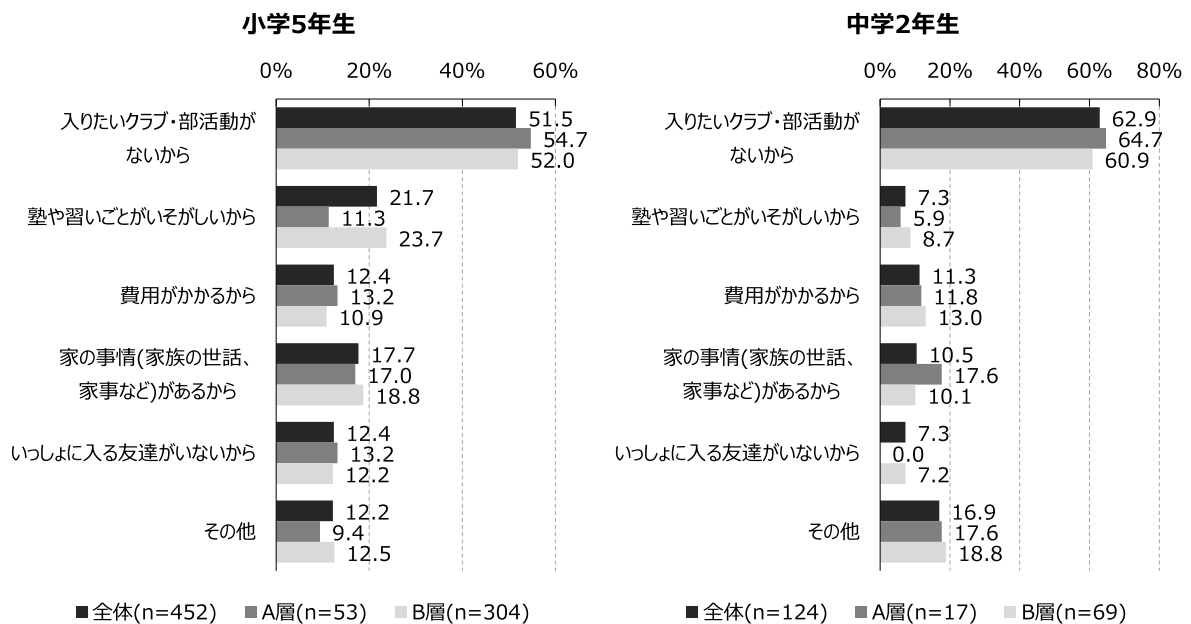


地域のスポーツクラブ、学校の部活動に参加していない理由

【小5】【中2】

問 (地域のスポーツクラブ、学校の部活動に) 参加していない理由はなんですか。

小学5年生では「入りたいクラブ・部活動がないから」が51.5%、「塾や習いごとがイソがしいから」が21.7%、「家の事情(家族の世話、家事など)があるから」が17.7%。中学2年生では「入りたいクラブ・部活動がないから」が62.9%、「その他」が16.9%、「費用がかかるから」が11.3%。



➤ 参加していない理由は、入りたいクラブ・活動がないからが最多だった。

➤ 家の事情、費用がかかるといった理由が10%以上みられる。

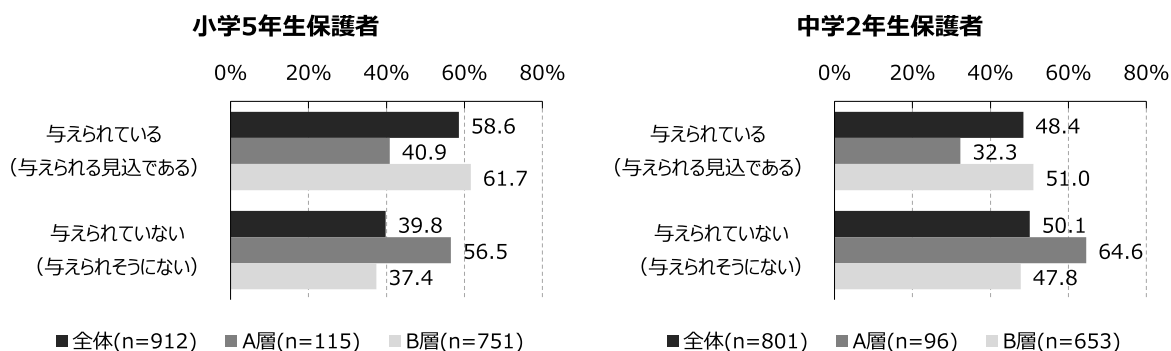
自然体験活動への参加

【小5・中2保護者】

問 次のような環境・モノをお子さんに与えられていますか。与えられそうですか。
 キャンプなど自然体験活動への参加

小学5年生保護者では「与えられている（与えられる見込である）」が58.6%、「与えられていない（与えられそうにない）」が39.8%。中学2年生保護者では「与えられている（与えられる見込である）」が48.4%、「与えられていない（与えられそうにない）」が50.1%。

「与えられていない（与えられそうにない）」は、小学5年生保護者で16.7ポイント、中学2年生保護者で14.5ポイント、A層が全体より多い。



- こどもの、キャンプなど自然体験活動への参加機会が、家庭の経済的状況の影響を受けていることがわかる。
- 同じ問いでも「必要な文房具」「季節にあった衣服」「遠足・修学旅行等の学校行事への参加」などではこのような影響がほとんどみられなかった。

切れ目のない保健・医療の提供

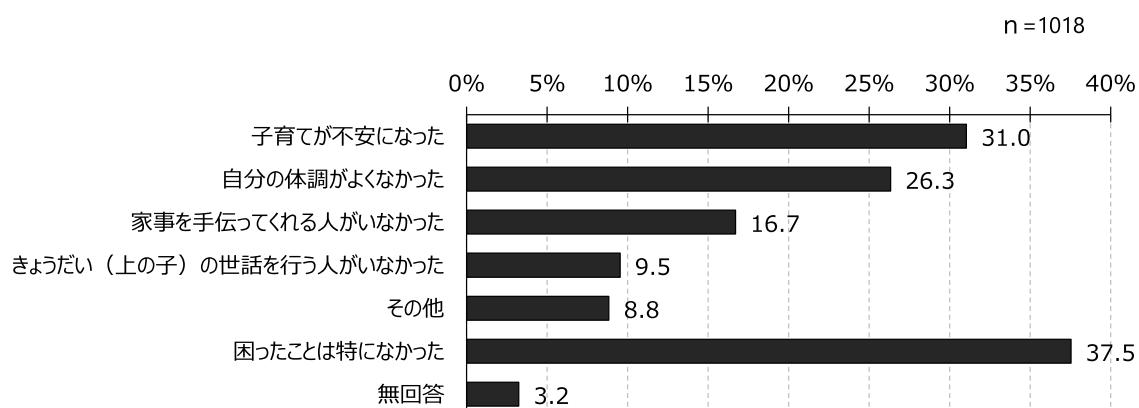
出産後の体調

【就学前保護者】【小学生保護者】

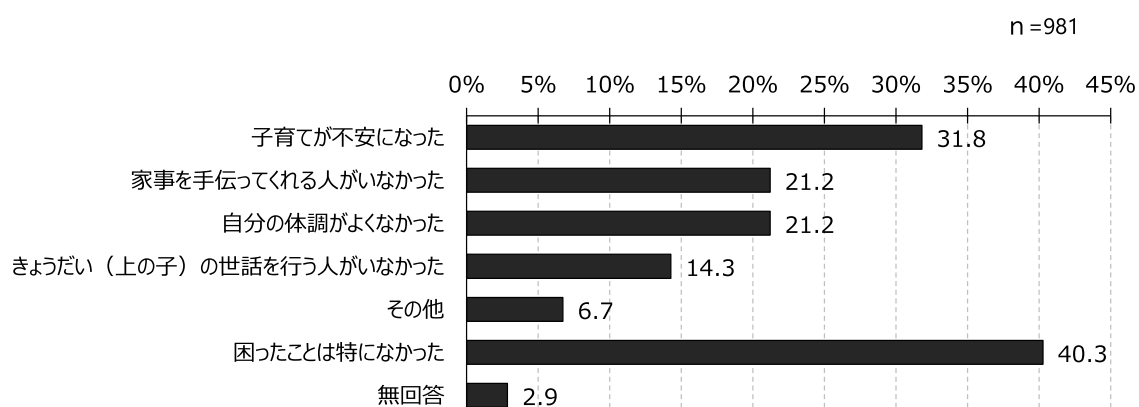
問 お子さんを出産した後で、困ったことはありましたか。

「困ったことは特になかった」が最も多い。就学前保護者では「子育てが不安になった」が31.0%、「自分の体調がよくなかった」が26.3%、「家事を手伝ってくれる人がいなかった」が16.7%、小学生保護者では「子育てが不安になった」が31.8%、「家事を手伝ってくれる人がいなかった」、「自分の体調がよくなかった」が21.2%、「きょうだい（上の子）の世話をを行う人がいなかった」が14.3%。

▼ 就学前保護者



▼ 小学生保護者



- 「自分の体調がよくなかった」が20%以上となっている。就学前保護者・小学生保護者とも回答者は約9割が「母親」であり、「自分の体調」は母親の体調のことと推察できる。
- こども大綱の重要事項「こどもや若者への切れ目のない保健・医療の提供」では、「妊娠・出産、不妊、産後ケア等のライフイベントや女性特有の健康課題について、フェムテックの活用に係る支援を行う。」とされている。

妊娠から出産におよぶ母子保健サービスや小児救急医療体制の充実

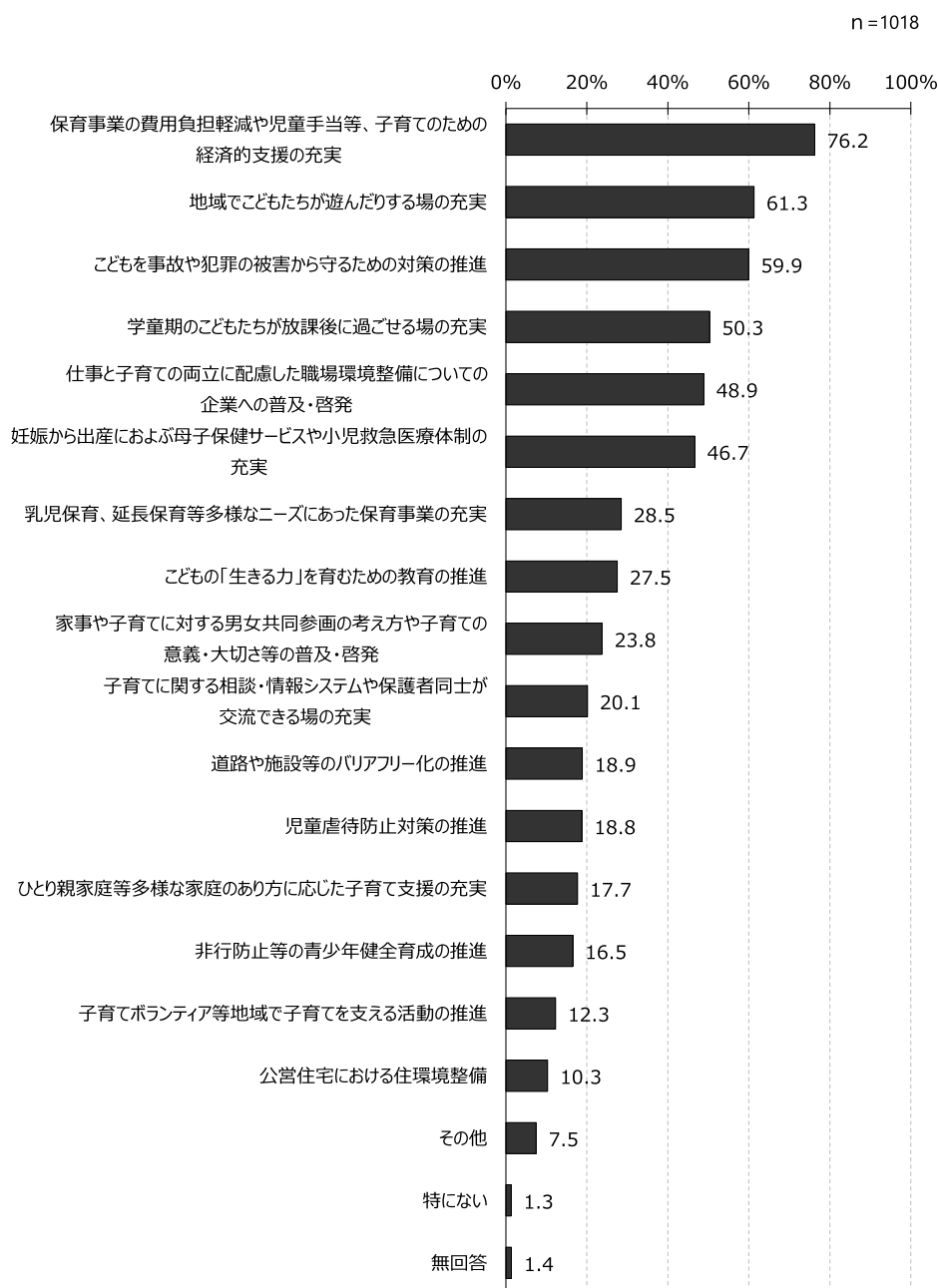
【就学前保護者】【小学生保護者】

問 こどもを健やかに生み育てるために、市にどのようなことを期待しますか。

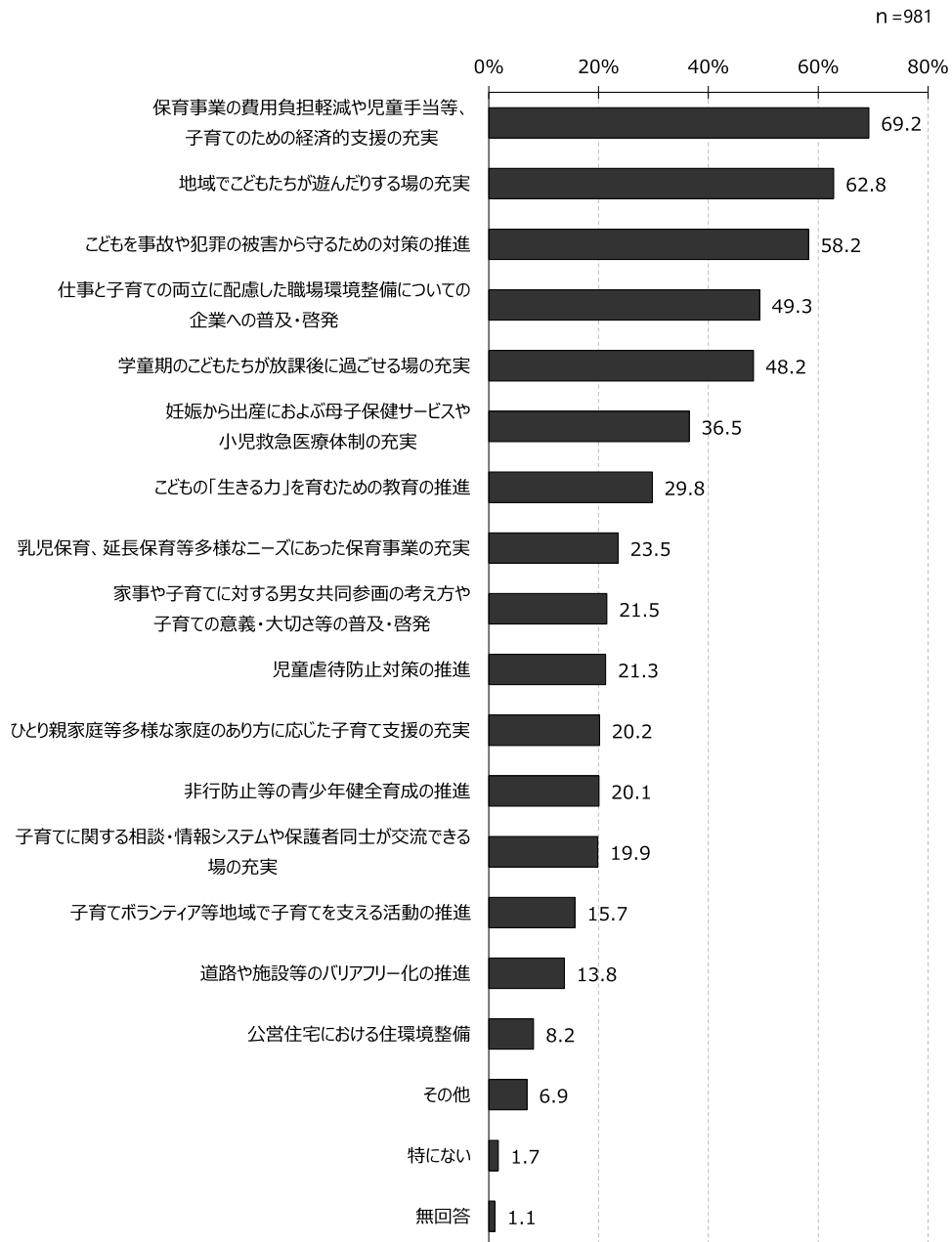
「妊娠から出産におよぶ母子保健サービスや小児救急医療体制の充実」に期待する回答は就学前保護者で46.7%、小学生保護者で36.5%。

母子保健・小児救急医療の充実への期待は就学前保護者、小学生保護者ともに高く、具体的16項目の中で上位6位以内。

▼ 就学前保護者



▼ 小学生保護者



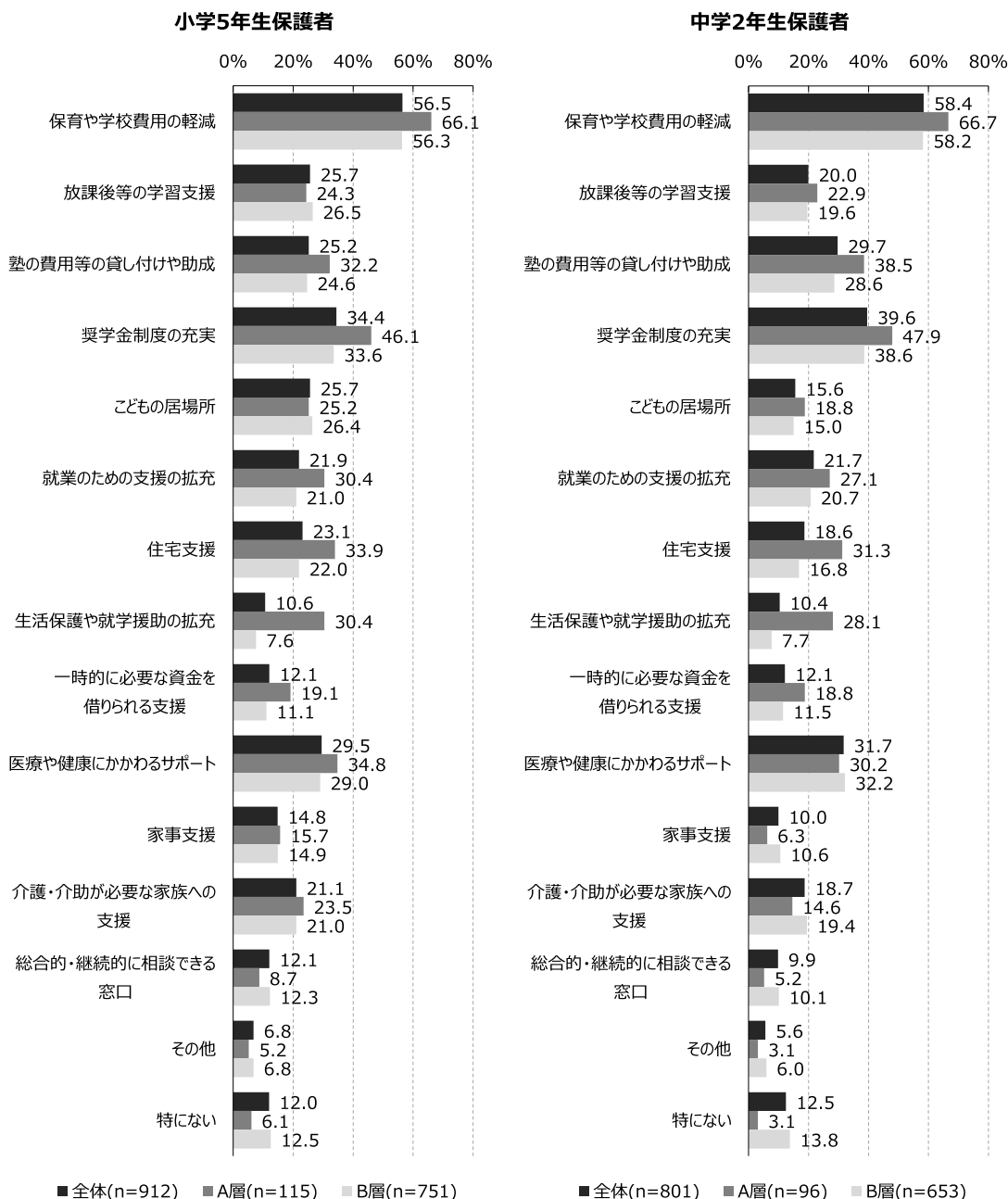
➤ 母子保健・小児救急医療の充実は、経済的支援や負担の軽減、こどもの遊び場所や過ごし場所、こどもの安全、仕事と子育てを両立する職場環境などと並び、市に期待されている取り組みである。

医療や健康にかかわるサポートの必要性

【小5・中2保護者】

問 現在必要だと思う支援はどのようなことですか。

小学5年生保護者では「保育や学校費用の軽減」が56.5%、「奨学金制度の充実」が34.4%、「医療や健康にかかわるサポート」が29.5%。中学2年生保護者では「保育や学校費用の軽減」が58.4%、「奨学金制度の充実」が39.6%、「医療や健康にかかわるサポート」が31.7%。「医療や健康にかかわるサポート」はいずれでも3位。



➤ 「医療や健康にかかわるサポート」は、小学5年生保護者ではA層が全体より多い。学年が低いほど、経済的状況のよくない家庭ではそれを求めていることがうかがえる。

こどもの貧困対策

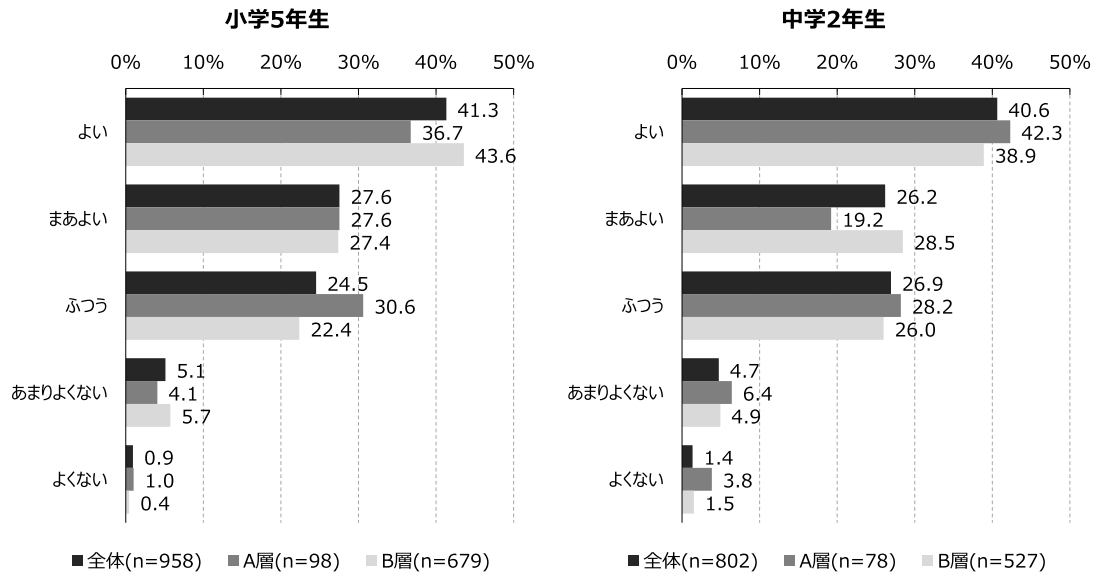
経済的な状況とこどもの主観的健康観

【小5】【中2】

問 あなたの健康状態について教えてください。

小学5年生では「よい」が41.3%、「まあよい」が27.6%、「ふつう」が24.5%。中学2年生では「よい」が40.6%、「ふつう」が26.9%、「まあよい」が26.2%。

中学2年生では「あまりよくない」、「よくない」ともA層が全体より多い。

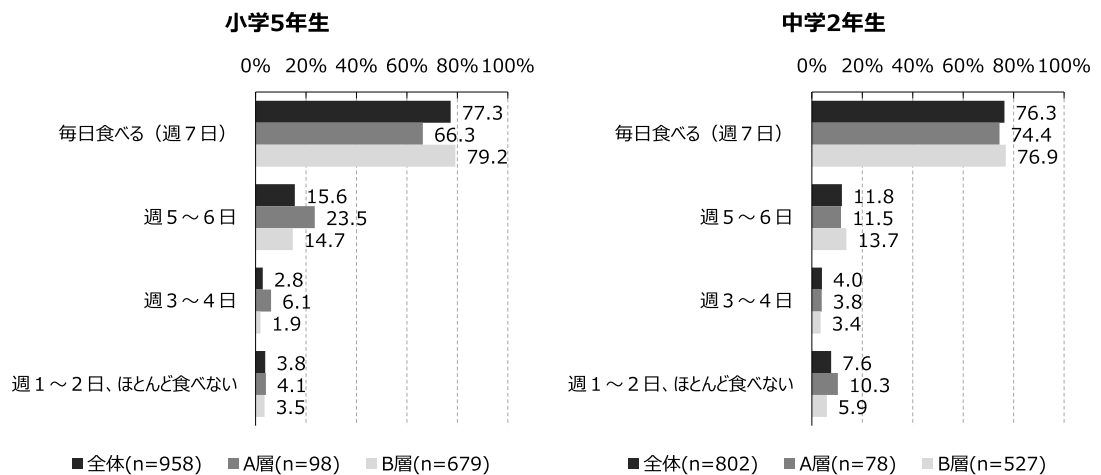


経済的な状況と朝食の摂取

【小5】【中2】

問 あなたは週にどのくらい、朝食をとっていますか。

小学5年生では「毎日食べる（週7日）」が77.3%。中学2年生では「毎日食べる（週7日）」が76.3%。「毎日食べる（週7日）」は、小学5年生ではA層が全体より11.0ポイント少ない。



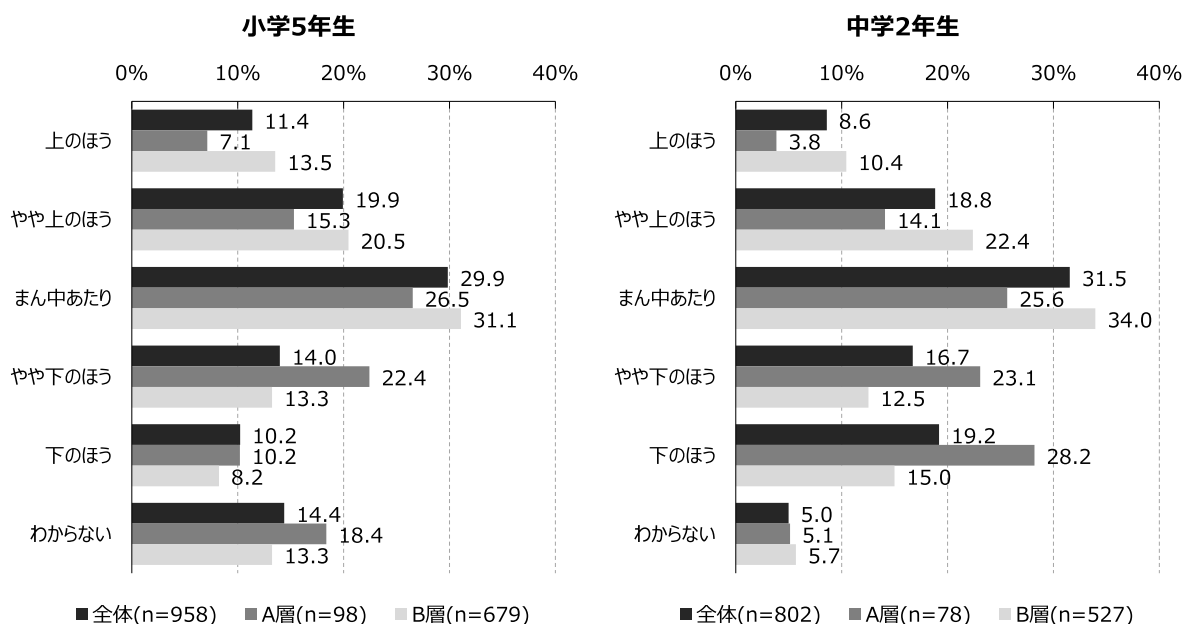
経済的な状況とこどもの主観的成績

【小5】【中2】

問 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。

小学5年生では「まん中あたり」が29.9%、「やや上のほう」が19.9%、「わからない」が14.4%。中学2年生では、「まん中あたり」が31.5%、「下のほう」が19.2%、「やや上のほう」が18.8%。

「やや下のほう」は小学5年生、中学2年生ともA層が全体より多く、「下のほう」の中学2年生ではA層が全体より9.0ポイント多い。

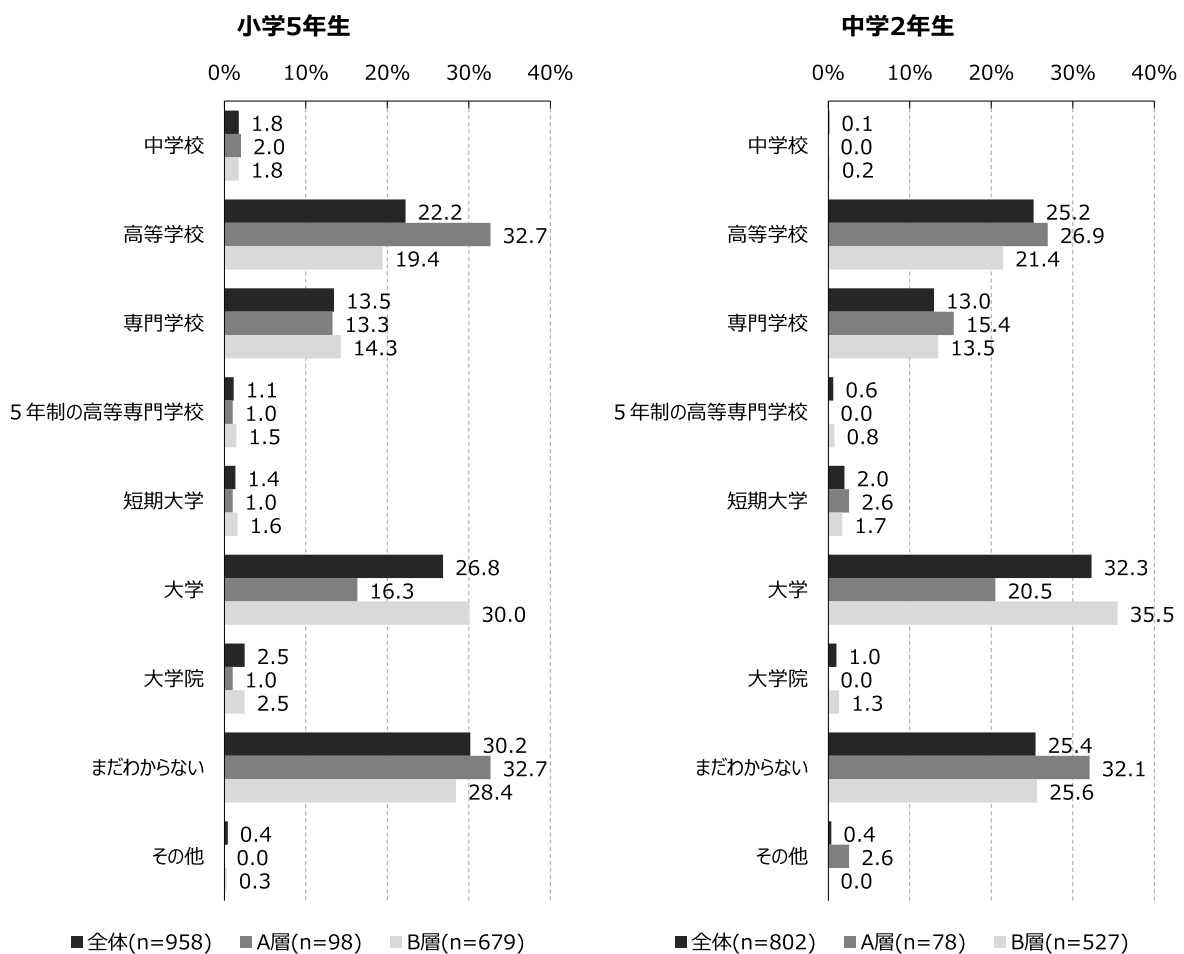


- こどもの主観的健康観、朝食の摂取状況、主観的な成績など、健康や学習に関連する事柄に、家庭の経済的な状況が影響をおよぼしていることがうかがえる。
- 小学5年生では、家庭の経済的な状況がこどもの朝食の摂取に影響している。こどもの食事の摂取は、頻度に加え栄養・バランスなど質の面からも配慮が必要で、朝食を抜くことはこどもの成長や健康への影響が懸念されるが、単なる経済的支援で解決が図れない側面もあり得る。保護者やこども自身への啓蒙（朝食をとることの大切さの理解）も重要と考えられる。

問 あなたは、しょうらい、どの学校まで進学したいですか。

小学5年生では「まだわからない」が30.2%、「大学」が26.8%、「高等学校」が22.2%。
 中学2年生では、「大学」が32.3%、「まだわからない」が25.4%、「高等学校」が25.2%。

「高等学校」は、小学5年生ではA層が全体より10.5ポイント多くっており、「大学」は、小学5年生で10.5ポイント、中学2年生で11.8ポイントの差で、A層が全体より少ない。



- 大学までの進学を希望するこどもの割合が、経済的状況のよくない家庭では少なくなる。また、小学5年生で、経済的状況のよくない家庭では「高等学校」までとする回答が多い。
- こどもがその置かれた環境により自らの将来についての選択肢を狭めている可能性がうかがえる。
- こども大綱の重要事項「こどもの貧困対策」では、「貧困及び貧困の連鎖によってこどもたちの将来が閉ざされることは決してあってはならない。」とされている。

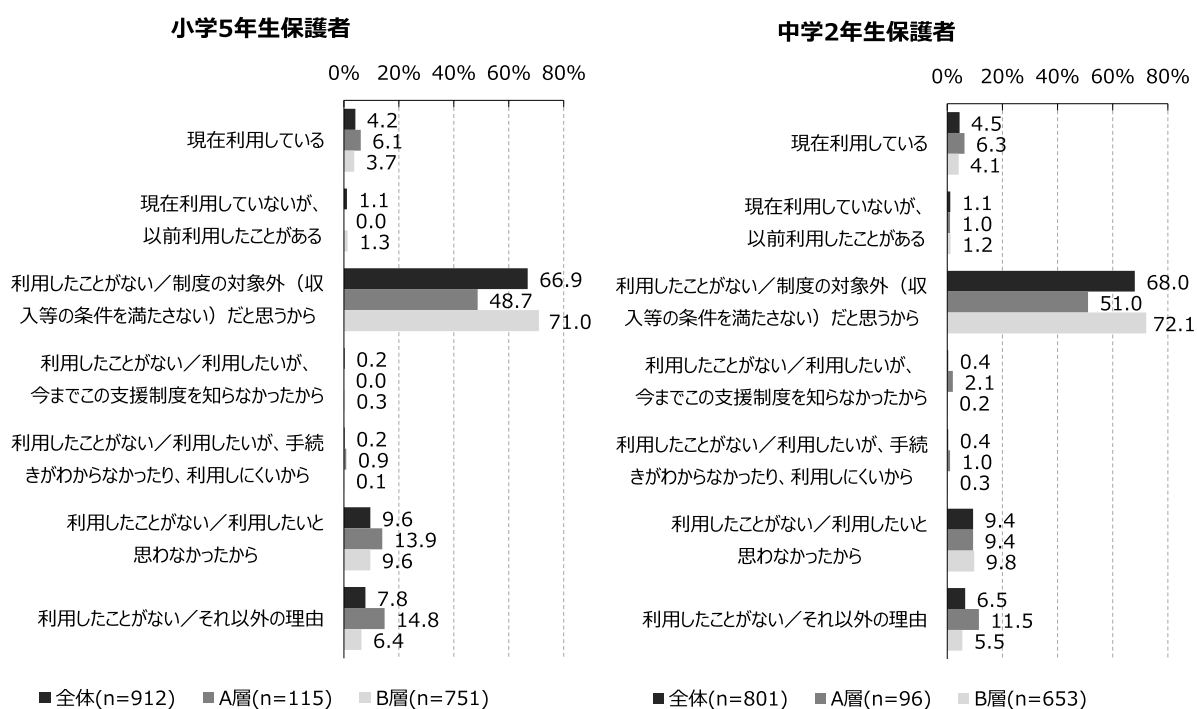
障がい児等への支援

障がいや難病の手当の利用

【小5・中2保護者】

問 あなたのご家庭では、障がいや難病の手当の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

小学5年生保護者では「利用したことがない／制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから」が66.9%、「利用したことがない／利用したいと思わなかったから」が9.6%、「利用したことがない／それ以外の理由」が7.8%。中学2年生保護者では「利用したことがない／制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから」が68.0%、「利用したことがない／利用したいと思わなかったから」が9.4%、「利用したことがない／それ以外の理由」が6.5%。



- 「利用したことがない／利用したいと思わなかったから」は、小学5年生保護者ではA層が全体より多くなっていることに注視が必要と思われる。
- 支援を受けることに対する抵抗感や、心理的障壁があるとするならば、その解消に取り組むことは重要。

児童虐待防止・ヤングケアラーへの支援

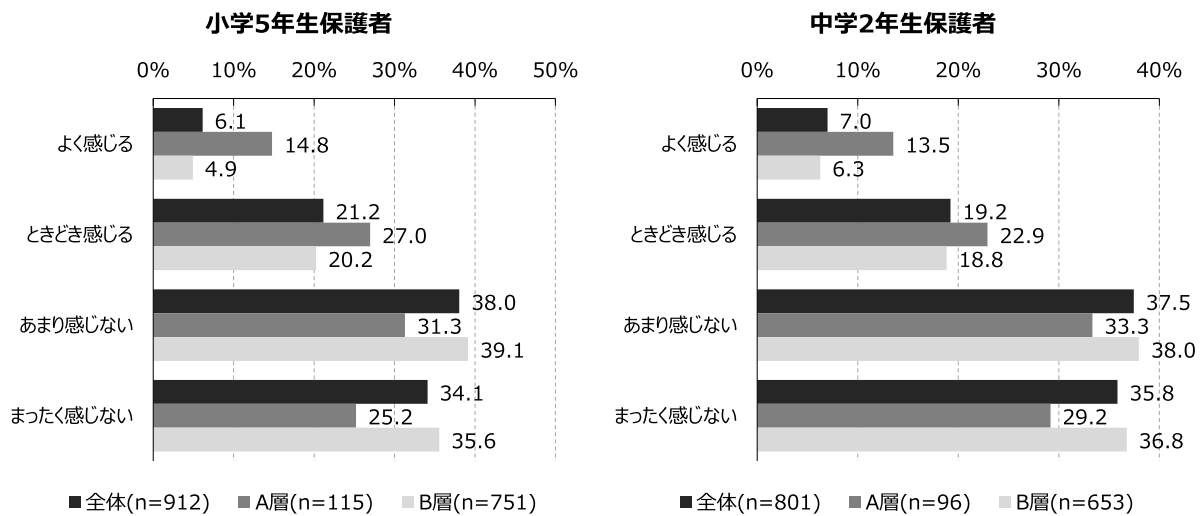
保護者の孤立感

【小5・中2保護者】

問 あなたは、こどもとの生活の中で一人ぼっちで子育てをしていると感じることはありますか。

小学5年生保護者では「あまり感じない」が38.0%、「まったく感じない」が34.1%、「ときどき感じる」が21.2%。中学2年生保護者では「あまり感じない」が37.5%、「まったく感じない」が35.8%、「ときどき感じる」が19.2%。

「よく感じる」「ときどき感じる」は、小学5年生保護者、中学2年生保護者ともにA層が全体より多い。



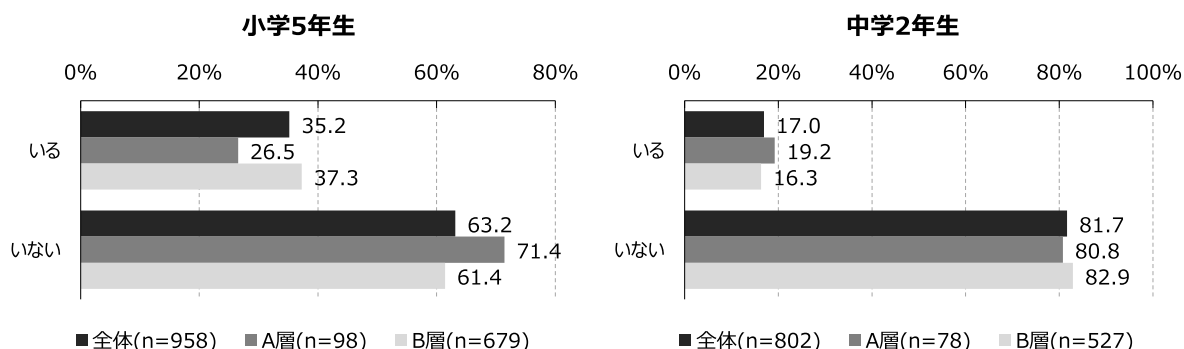
- 「経済的状況のよくない家庭では保護者が子育てにおいて孤立感を持ちやすく、保護者の孤立感はこどもの虐待につながる」といった短絡的な議論は避けなければならない。しかし、経済的困難の状況にあるこどもや子育て当事者が社会的孤立に陥ることのないよう、妊娠・出産期からの相談支援の充実や居場所づくりなど、生活の安定に役立つ支援を進めることは重要。

こどもによる家族のお世話

【小5】【中2】

問 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。

小学5年生では「いる」が35.2%、「いない」が63.2%。中学2年生では「いる」が17.0%、「いない」が81.7%。



上の質問で「いる」と答えた人

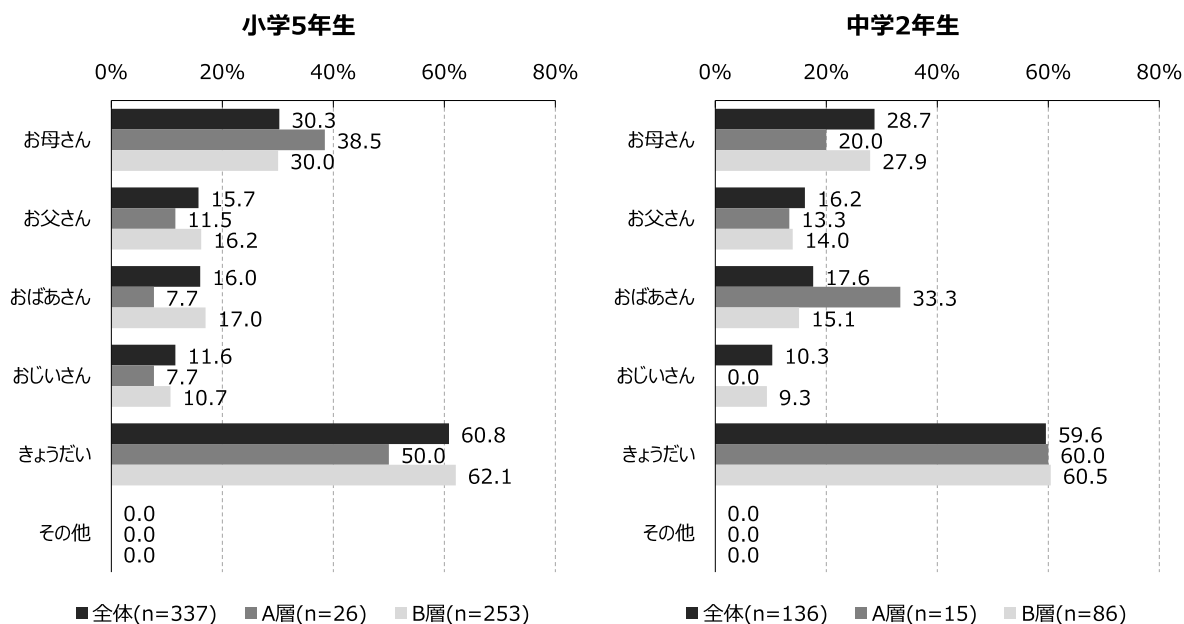
こどもによる家族のお世話の対象

【小5】【中2】

問 あなたは、だれのお世話をしていますか。

小学5年生では「きょうだい」が60.8%、「お母さん」が30.3%、「おばあさん」が16.0%。中学2年生では「きょうだい」が59.6%、「お母さん」が28.7%、「おばあさん」が17.6%。

「きょうだい」は、小学5年生ではA層が全体より10.8ポイント少なく、「おばあさん」は、中学2年生ではA層が全体より15.7ポイント多い。



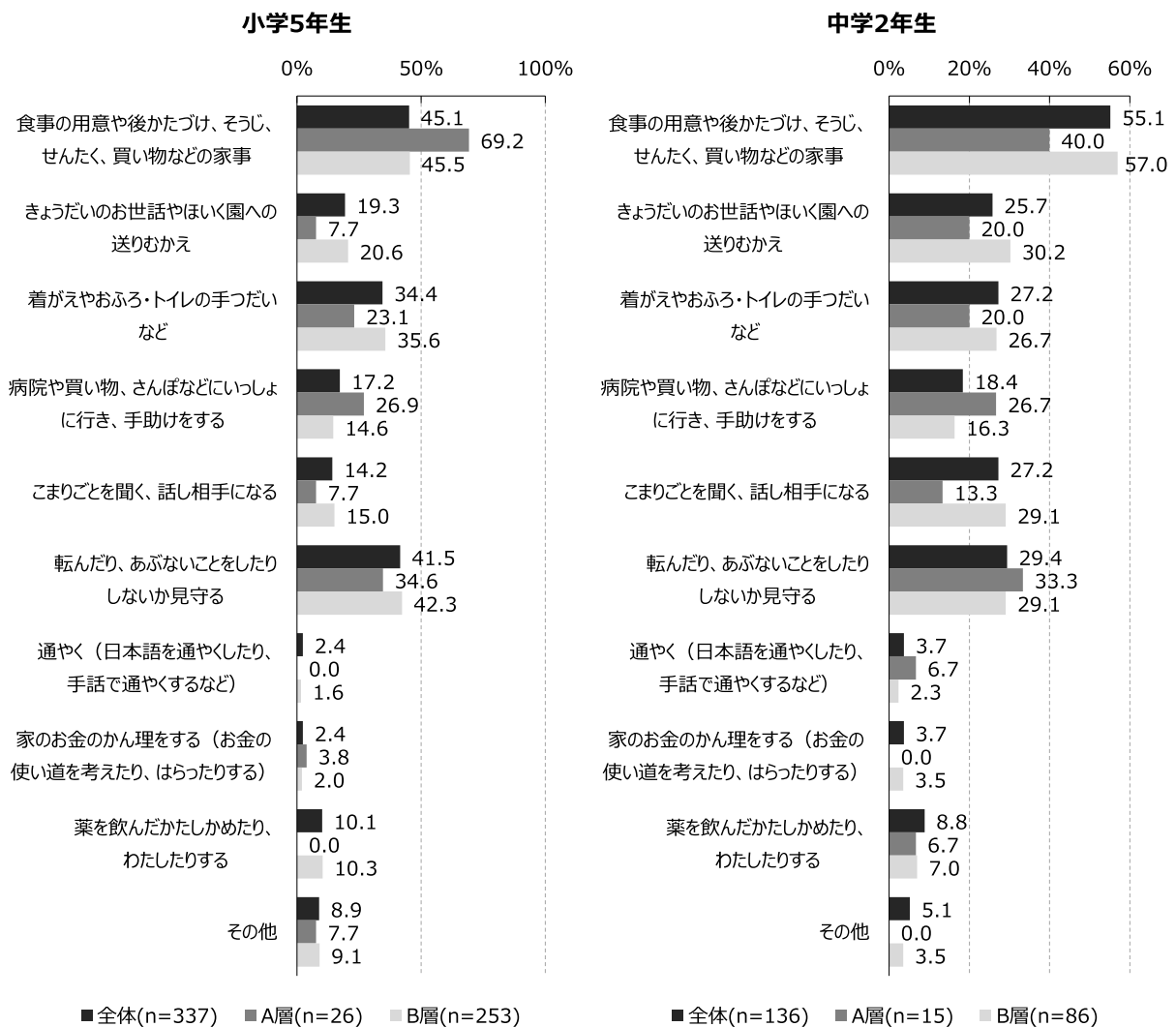
お世話をしている家族が「いる」と答えた人

こどもによる家族のお世話の内容

【小5】【中2】

問 あなたは、どのようなお世話をしていますか。

小学5年生では「食事の用意や後かたづけ、そうじ、せんたく、買い物などの家事」が45.1%、「転んだり、あぶないことをしたりしないか見守る」が41.5%、「着がえやおふろ・トイレの手つだいなど」が34.4%。中学2年生では「食事の用意や後かたづけ、そうじ、せんたく、買い物などの家事」が55.1%、「転んだり、あぶないことをしたりしないか見守る」が29.4%、「着がえやおふろ・トイレの手つだいなど」、「こまりごとを聞く、話し相手になる」が27.2%。



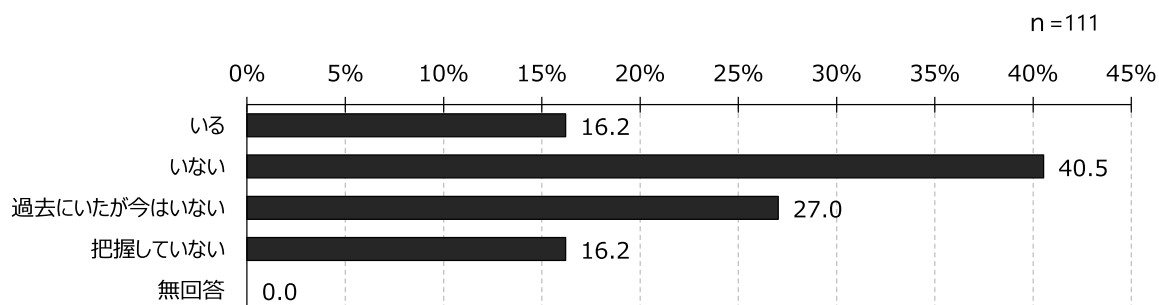
- 「家事や家族のお世話をしているこども＝ヤングケアラー」ではない。ヤングケアラーの存在について今回の調査のみで量ることには限界がある。
- 家族のお世話には思いやりの心を育む良い面もあり、上記回答の内容が過度な負担になっていないか、こどもらしく過ごす権利の侵害につながっていないかなど、個々のケースを慎重に確認することが重要。

学校関係者によるヤングケアラーの把握

【学校 (YC)】

問 あなたの学校にヤングケアラーではないかと感じる（可能性も含めて）児童・生徒はいますか。

「いない」が40.5%、「過去にいたが今はいない」が27.0%、「いる」、「把握していない」が16.2%。



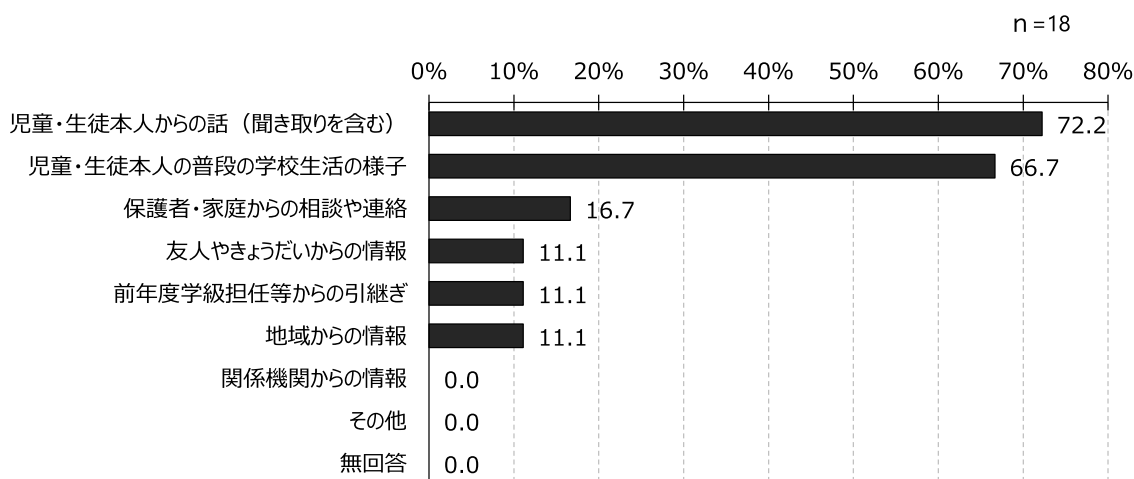
上の質問で「いる」と答えた人

学校関係者がヤングケアラーの可能性を感じたきっかけ

【学校 (YC)】

問 その児童・生徒がヤングケアラーではないかと感じたきっかけを教えてください。

「児童・生徒本人からの話（聞き取りを含む）」が72.2%、「児童・生徒本人の普段の学校生活の様子」が66.7%、「保護者・家庭からの相談や連絡」が16.7%、「友人やきょうだいやいからの情報」、「前年度学級担任等からの引継ぎ」、「地域からの情報」が11.1%。



- こどもが自らヤングケアラーだと相談をしてくるケースは多くなく、関係者が「気づく」ことが重要。対話や本人の観察、家族全体を見ることでヤングケアラーに気づけることもある。上記の回答は教員ならでのものであり、支援の起点となる「気づき」が学校の現場において少なからず始まっていることがわかる。

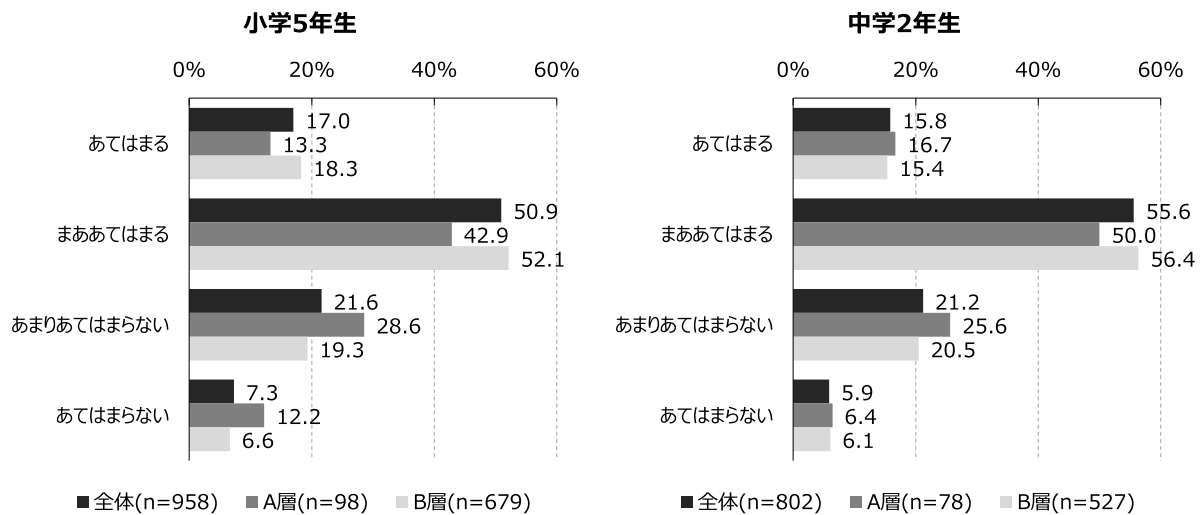
こどもの自己肯定感・悩みの相談

こどもの自己評価

【小5】【中2】

問 次の質問について、あなたはあてはまると思えますか。
同じくらいの年れいのこどもからは、だいたい好かれている。

小学5年生では「まああてはまる」が50.9%、「あまりあてはまらない」が21.6%、「あてはまる」が17.0%。中学2年生では「まああてはまる」が55.6%、「あまりあてはまらない」が21.2%、「あてはまる」が15.8%。



- 目を向けるべきは「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」が学年によらずA層で全体より多い点である。
- 自己肯定感や道徳性、社会性などを育み、友人関係や遊びを通じて協調性や自主性を身につけるべき時期にあるこどもが、家庭の経済的状況などにかかわらず自己肯定感を高めることができる環境を整えていくことが重要。

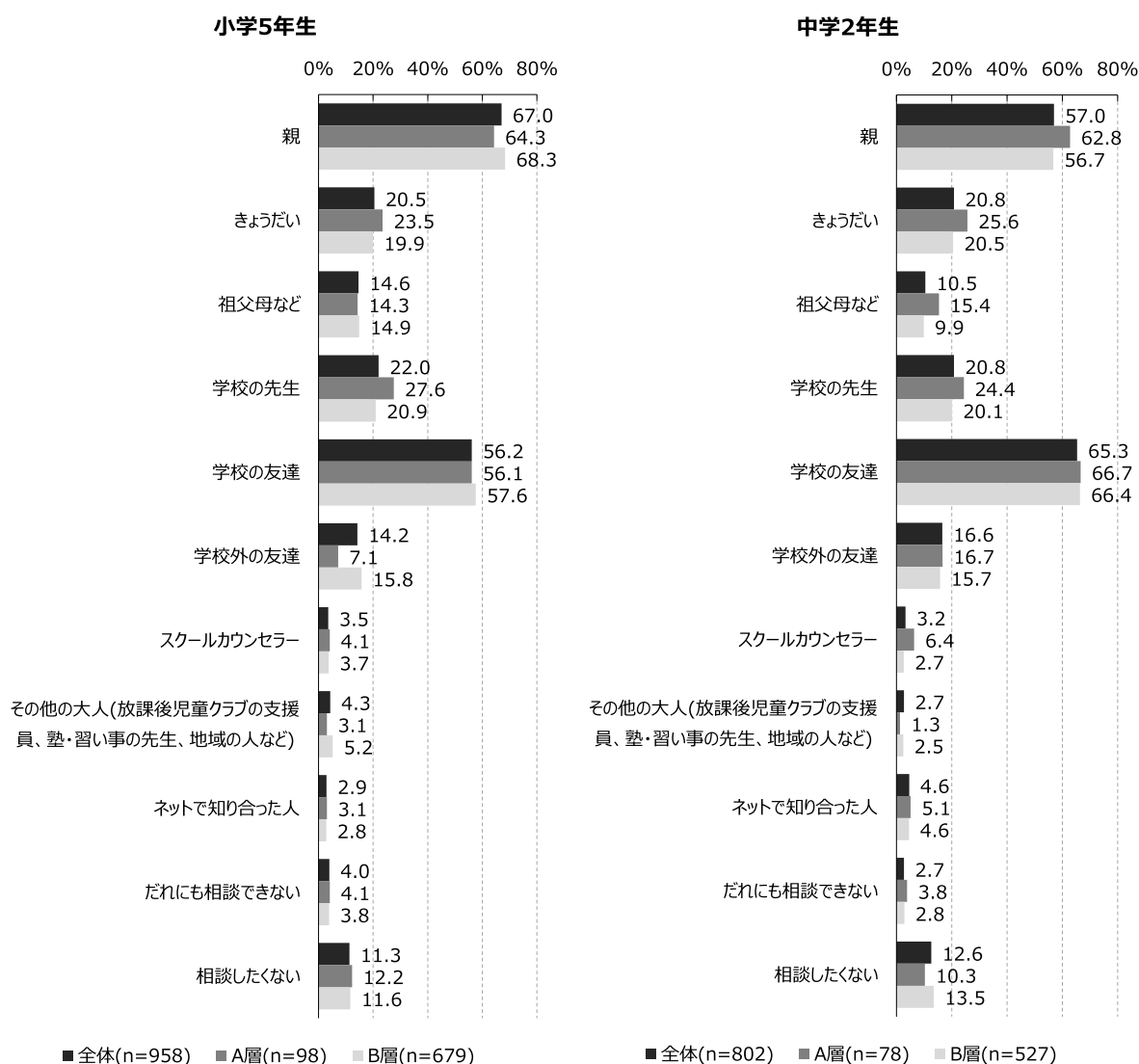
困りごとや悩みごとの相談先

【小5】【中2】

問 こまっていることやなやみごとがあるとき、相談できると思う人はだれですか。

小学5年生では、「親」が67.0%、「学校の友達」が56.2%、「学校の先生」が22.0%。中学2年生では、「学校の友達」が65.3%、「親」が57.0%、「きょうだい」、「学校の先生」が20.8%。

困りごとや悩みごとを抱えながらもSOSを発信できていない状況の考えられる「だれにも相談できない」が小学5年生で4.0%、中学2年生で2.7%みられる。また、信頼できる相談先が思いつかない状況の考えられる「相談したくない」が、小学5年生で11.3%、中学2年生で12.6%みられる。



- こどもが困りごとや悩みごとを相談する先は家族・親族、友人、先生が主であり、公的な機関や支援者は多くない。
- 逆に家族・親族、友人、先生には相談しにくい悩みや困りごとを受け止めてくれる機関や支援者の充実が求められ、それらがこどもたちからみて「相談しやすいところ・人」と捉えられるようにすることも重要。

子育てや教育に関する経済的負担の軽減

子育てにかかる経済的な負担感

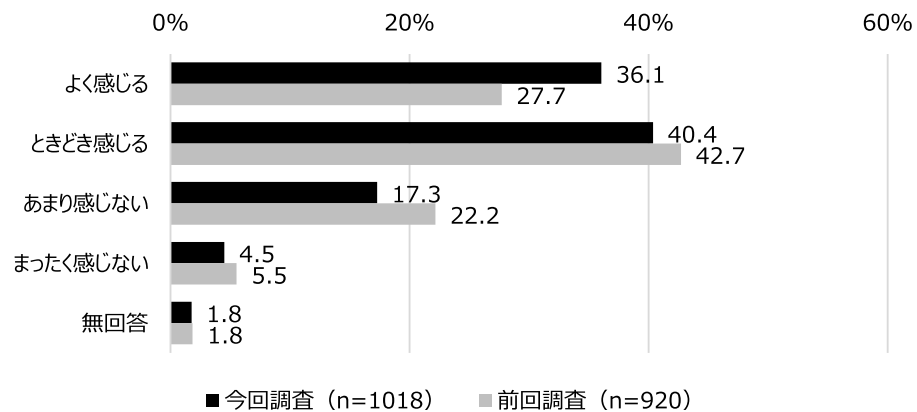
【就学前保護者】【小学生保護者】

問 子育てをしていて、子育てにかかる経済的な負担を感じることはありますか。

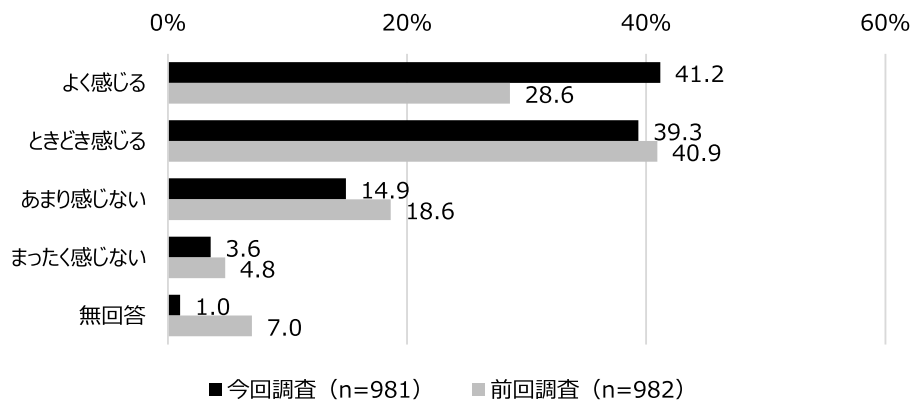
就学前保護者では「よく感じる」が36.1%、前回調査より8.4ポイント増加している。

小学生保護者では「よく感じる」が41.2%、前回調査より12.6ポイント増加している。

▼ 就学前保護者



▼ 小学生保護者

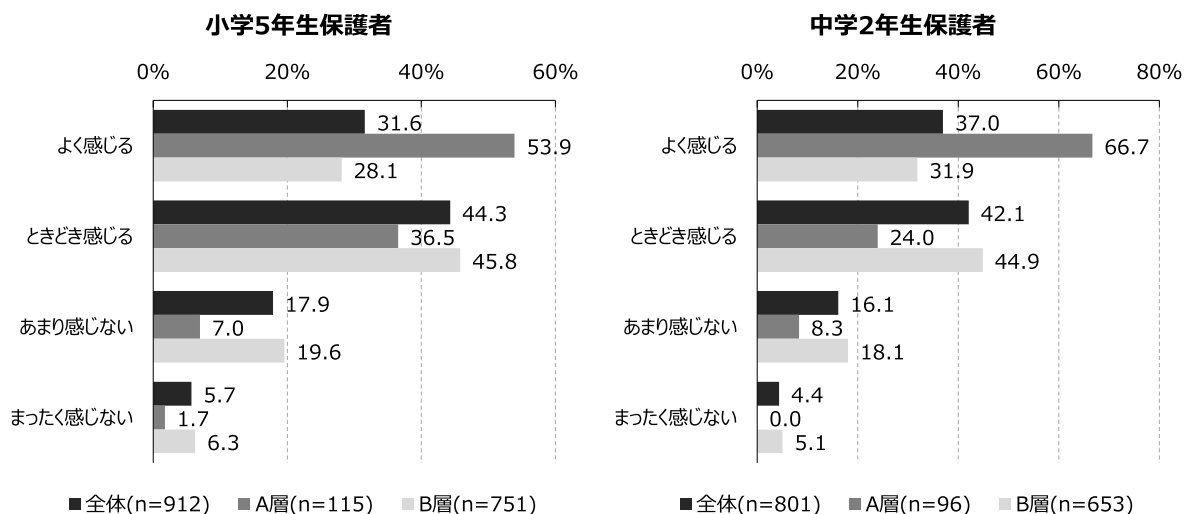


【小5・中2保護者】

問 あなたは、こどもとの生活の中で子育てにかかる経済的な負担を感じることはありますか。

小学5年生保護者では「ときどき感じる」が44.3%、「よく感じる」が31.6%、「あまり感じない」が17.9%。中学2年生保護者では「ときどき感じる」が42.1%、「よく感じる」が37.0%、「あまり感じない」が16.1%。

「よく感じる」は、小学5年生保護者で22.3ポイント、中学2年生保護者で29.7ポイント、A層が全体より多い。



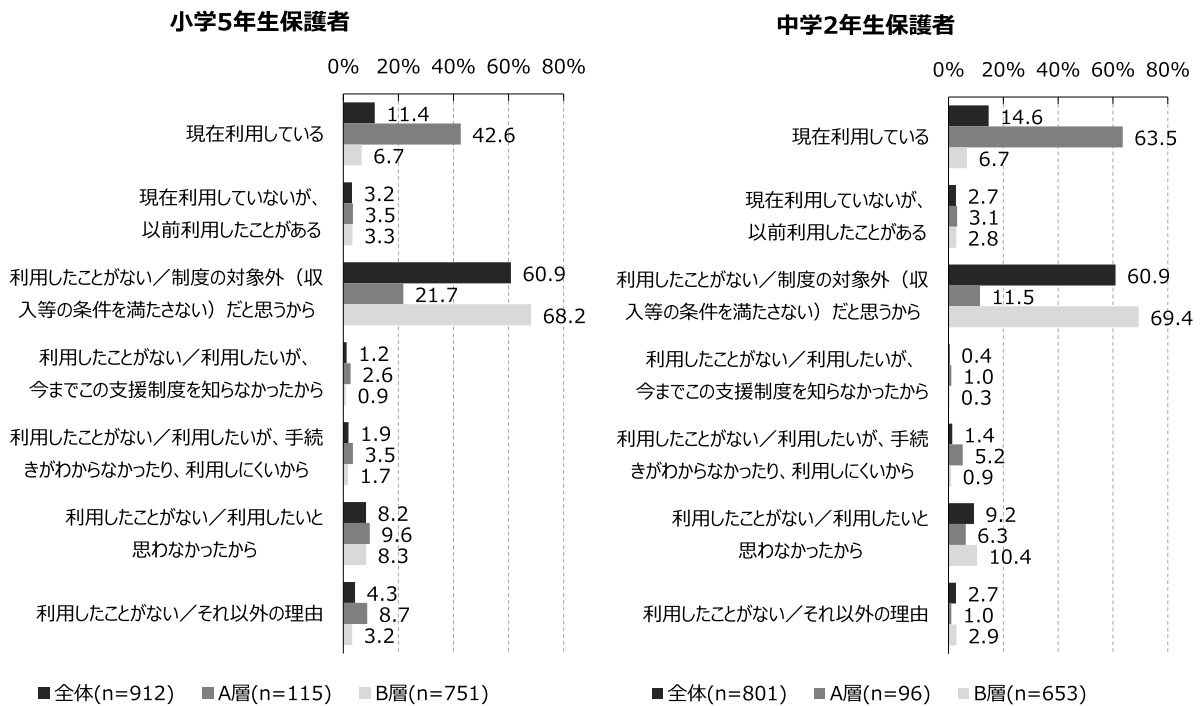
- ▶ 就学前保護者、小学生保護者において、前回調査（5年前）と比べて子育てにかかる経済的な負担感が増加している。コロナ禍による収入減などの影響があることも考えられ、必ずしも現行計画期間中における経済的支援の施策・取り組みの不足を示しているものとはいえない。
- ▶ 小5・中2保護者においては、経済的状況のよくない家庭ほど子育てにかかる経済的な負担を強く感じていることが明らかになっている。

就学援助の利用

【小5・中2保護者】

問 あなたのご家庭では、就学援助の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

小学5年生保護者では「利用したことがない／制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が60.9%、「現在利用している」が11.4%、「利用したことがない／利用したいと思わなかったから」が8.2%。中学2年生保護者では「利用したことがない／制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が60.9%、「現在利用している」が14.6%、「利用したことがない／利用したいと思わなかったから」が9.2%。



- 利用したいが手続きがわからなかったり利用しにくい、という意見は少ない。また、就学援助の制度を知らなかったという意見も少ない。
- 10%弱の回答がみられる「利用したいと思わなかった」の背景が、必要を感じていなかったのか、体面を気にするなどほかの要因によるものなのかは本調査だけでは量り難いが、特に経済的支援の各種制度の利用勧奨において考慮すべきポイントと考えられる。

地域子育て支援、家庭教育支援

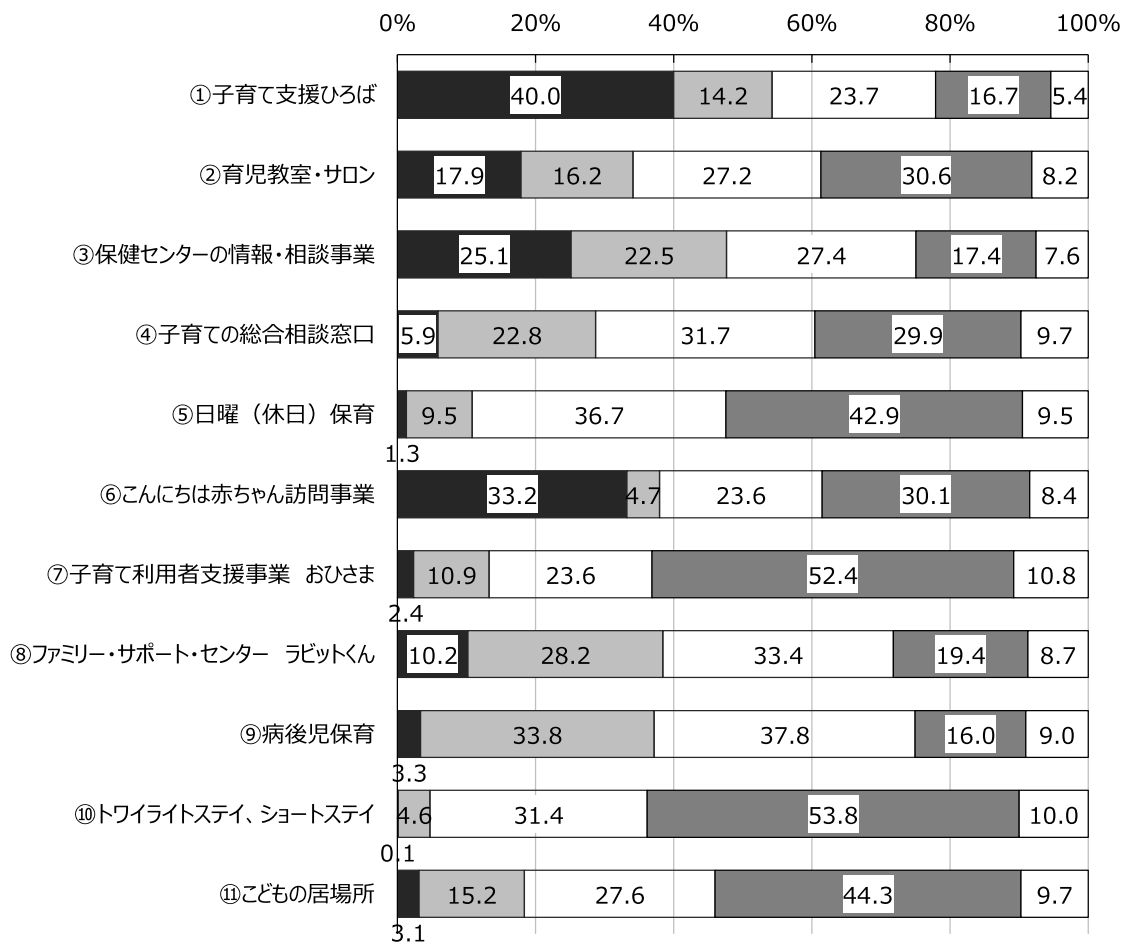
地域の子育て支援事業の利用状況

【就学前保護者】

問 次の事業で知っているものや、利用の状況・希望をお答えください。

「利用している/したことがある」は、「①子育て支援ひろば」が40.0%、「⑥こんにちは赤ちゃん訪問事業」が33.2%、「③保健センターの情報・相談事業」が25.1%。

(n=1018)



■利用している/したことがある □今後は利用したい □利用の必要はない ■この事業を知らない □無回答

- それぞれの事業で利用の状況や希望が異なることは、当事者にとっての必要性などが異なることから当然と考えられる。
- 注目すべきは、それぞれの事業における「この事業を知らない」の割合であり、周知や情報提供の不足によって利用されていないとすれば、改善のための対策を検討する必要がある。

子育てに関する相談先

【就学前保護者】【小学生保護者】

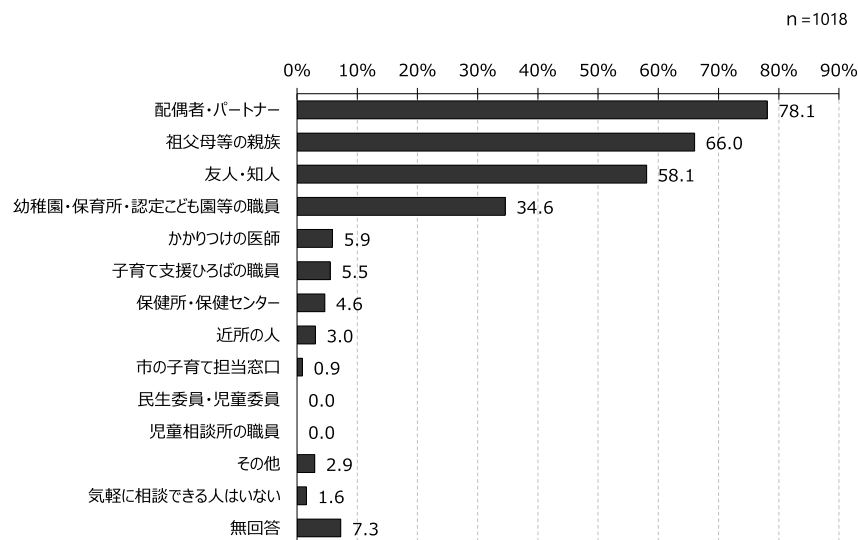
問 お子さんの子育て（教育を含む）について、気軽に相談できる先は誰（どこ）ですか。

就学前保護者では「配偶者・パートナー」が78.1%、「祖父母等の親族」が66.0%、「友人・知人」が58.1%、「幼稚園・保育所・認定こども園等の職員」が34.6%。

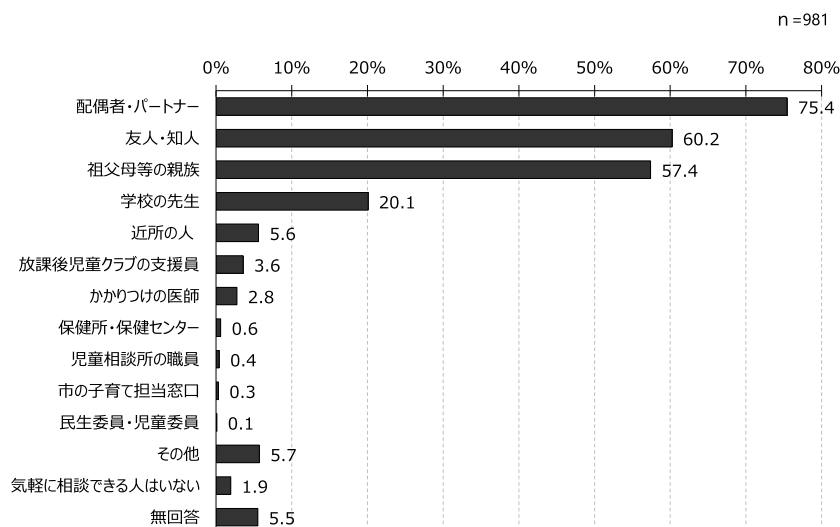
小学生保護者では「配偶者・パートナー」が75.4%、「友人・知人」が60.2%、「祖父母等の親族」が57.4%、「学校の先生」が20.1%。

いずれも家族、親族、知人が多く、園の職員や学校の先生が続いており、公的な機関の割合は総じて低い。

▼ 就学前保護者



▼ 小学生保護者



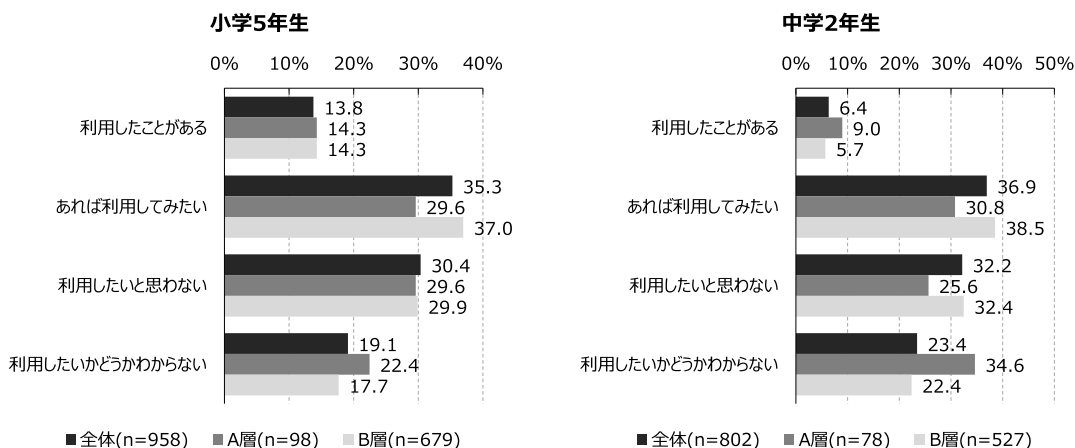
➤ 【小5】【中2】調査と同様に、家族・親族、友人、先生には相談しにくい悩みや困りごとを受け止めてくれる機関や支援者の充実を検討する必要がある。

こども食堂¹⁾の利用経験と利用意向

【小5】【中2】

問 次のような場所を利用したことがありますか。「夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（こども食堂など）」

小学5年生では「あれば利用してみたい」が35.3%、「利用したいと思わない」が30.4%、「利用したいかどうか分からない」が19.1%。中学2年生では「あれば利用してみたい」が36.9%、「利用したいと思わない」が32.2%、「利用したいかどうか分からない」が23.4%。

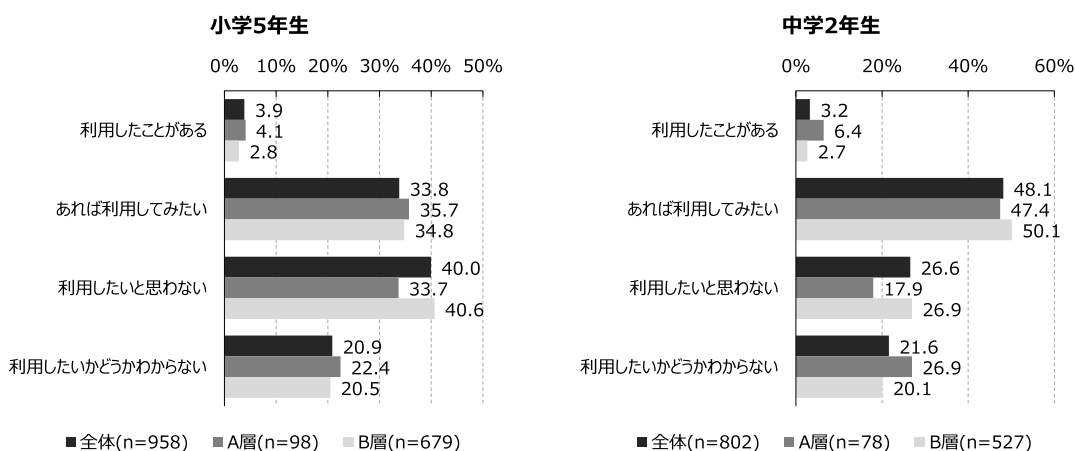


無料の学習支援の利用経験と利用意向

【小5】【中2】

次のような場所を利用したことがありますか。「勉強を無料でみてくれる場所」

小学5年生では「利用したいと思わない」が40.0%、「あれば利用してみたい」が33.8%、「利用したいかどうか分からない」が20.9%。中学2年生では「あれば利用してみたい」が48.1%、「利用したいと思わない」が26.6%、「利用したいかどうか分からない」が21.6%。



1 こども食堂：NPO法人等が独自に運営して、こどもたちに食事を提供する取り組みのこと。こどもたちの「食」を支えるだけでなく、安心できる居場所、地域の交流の拠点としての役割を果たす。

- いわゆるこどもの貧困対策では、支援を受けるにあたって当事者（家族・子ども）が「負い目」や「恥ずかしさ」といったことを感じないようにする配慮が最も重要と考えられ、これはヤングケアラー支援にも通じる点である。行政による活動支援の広報・告知等にまでおよぶ配慮のポイントといえる。
- 各種手当や給付金のような、制度上対象者を明示する必要がある支援と、経済的な困難状況にある家庭や子どもへの配慮を怠ることなく、かつ全ての家庭と子どもを視野に取り組んでいくべき支援がある。

子育て支援、共育ての推進、男性の家事・子育てへの参画

母親の現在の就労状況

【就学前保護者】【小学生保護者】

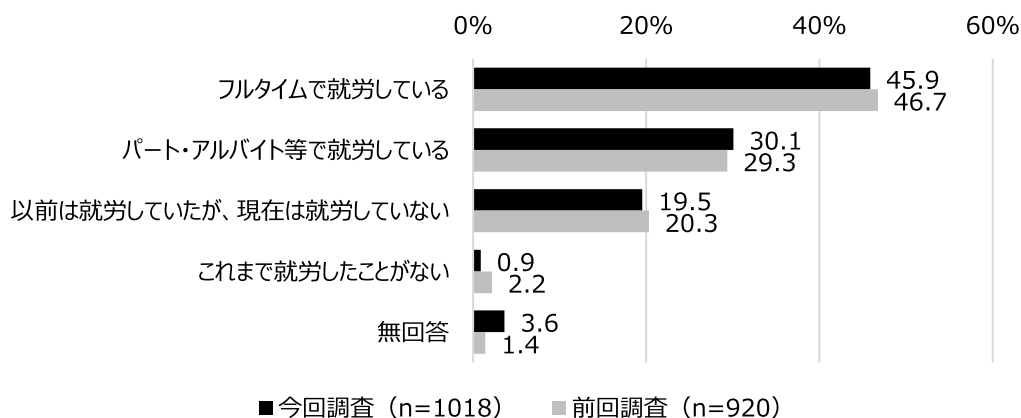
問 保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者を含む）は次のどれですか。

「お母さん」について／就労状況

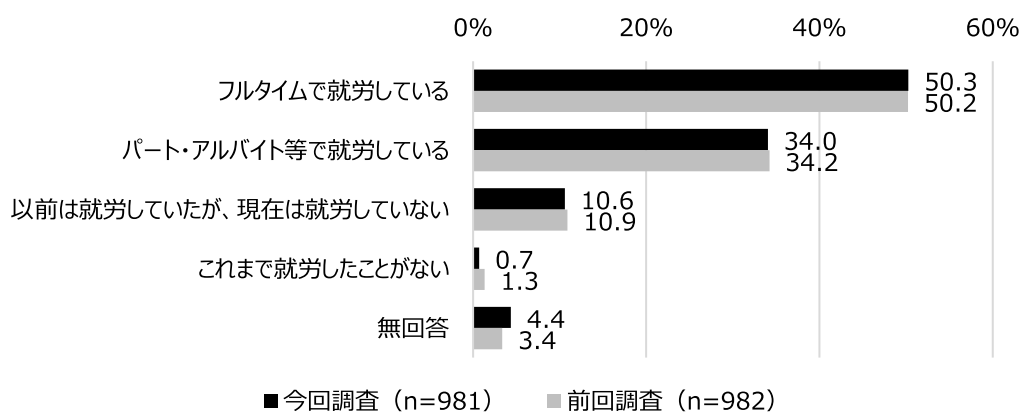
就学前のお母さんでは「フルタイムで就労している」が45.9%、「パート・アルバイト等で就労している」が30.1%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が19.5%。前回調査と比較するとフルタイムでの就労が0.8ポイントとわずかに減少し、パート・アルバイトでの就労が0.8ポイントとわずかに増加している。「これまで就労したことがない」は1.3ポイント減少している。

小学生のお母さんでは「フルタイムで就労している」が50.3%、「パート・アルバイト等で就労している」が34.0%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が10.6%。前回調査からの変化はほとんどみられない。

▼ 就学前保護者



▼ 小学生保護者



➤ 前回調査（5年前）と比べて母親の就労はコロナ禍を経ても減ってはいない。幼児期でも母親がフルタイム就労を選ぶ（あるいは求める）傾向が今後も続く可能性は大きい。

子育てに関わっている人

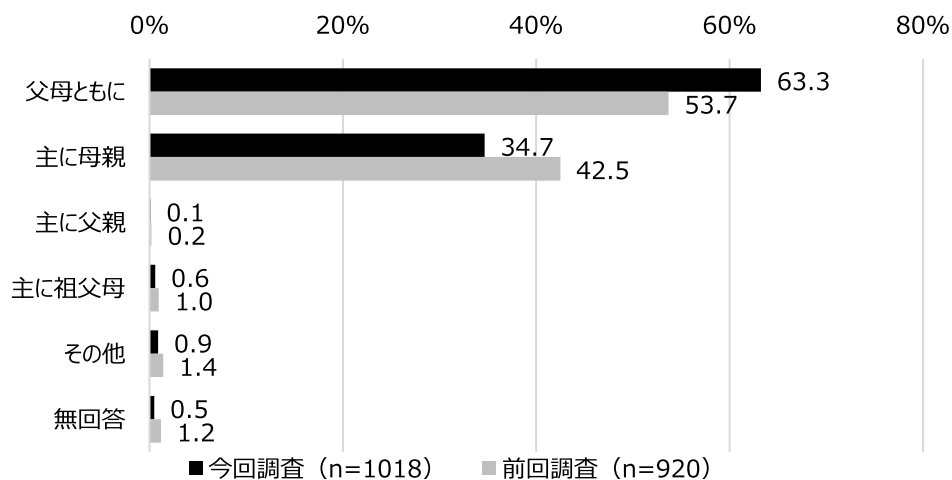
【就学前保護者】【小学生保護者】

問 お子さんの子育て（教育を含む）を主に行っている方はどなたですか。

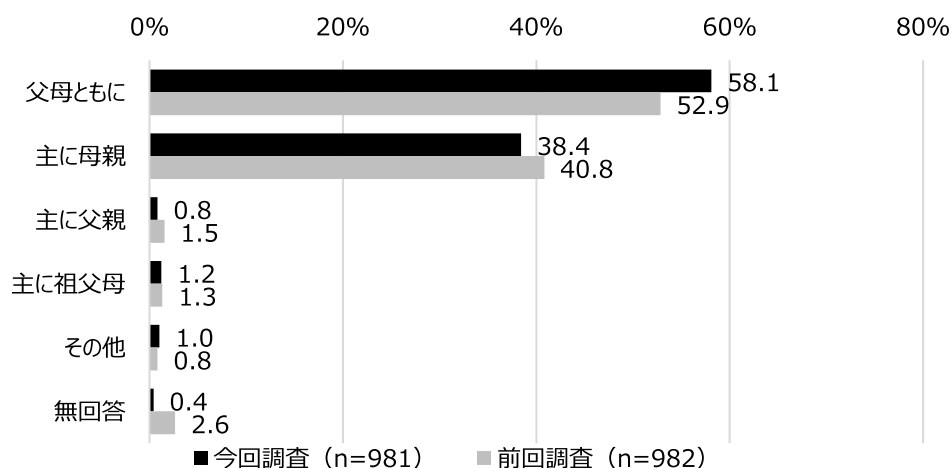
就学前保護者では「父母ともに」が63.3%、「主に母親」が34.7%、「その他」が0.9%、「主に祖父母」が0.6%、「主に父親」が0.1%。前回調査と比較すると「父母ともに」は9.6ポイント増加し、「主に母親」は7.8ポイント減少している。

小学生保護者では「父母ともに」が58.1%、「主に母親」が38.4%、「主に祖父母」が1.2%、「その他」が1.0%。前回調査と比較すると「父母ともに」は5.2ポイント増加し、「主に母親」は2.4ポイント減少している。

▼ 就学前保護者



▼ 小学生保護者



- 「主に父親」にほとんど変化はみられないが、母親のみではなく父母が協力しての子育てが増えていることがわかる。

日頃、こどもをみてもらえる親族や知人等

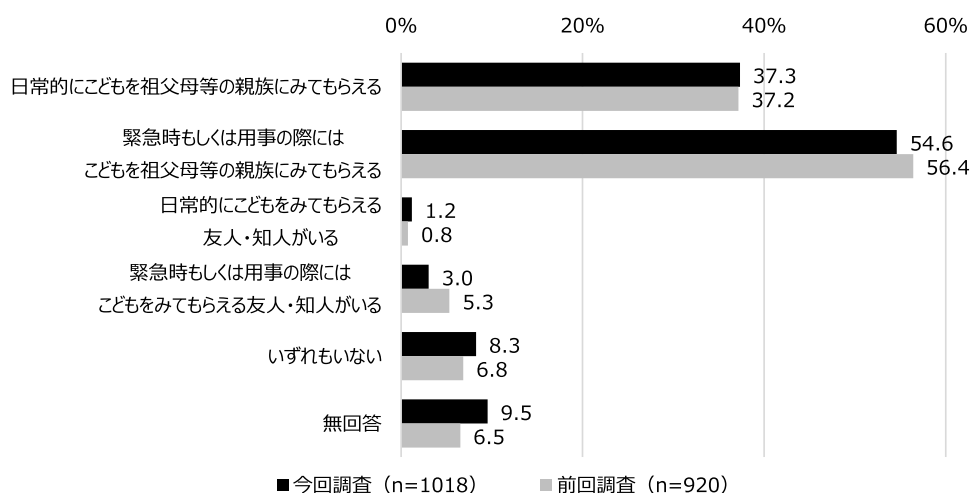
【就学前保護者】【小学生保護者】

問 日頃、お子さんをみてもらえる親族や知人等はいますか。

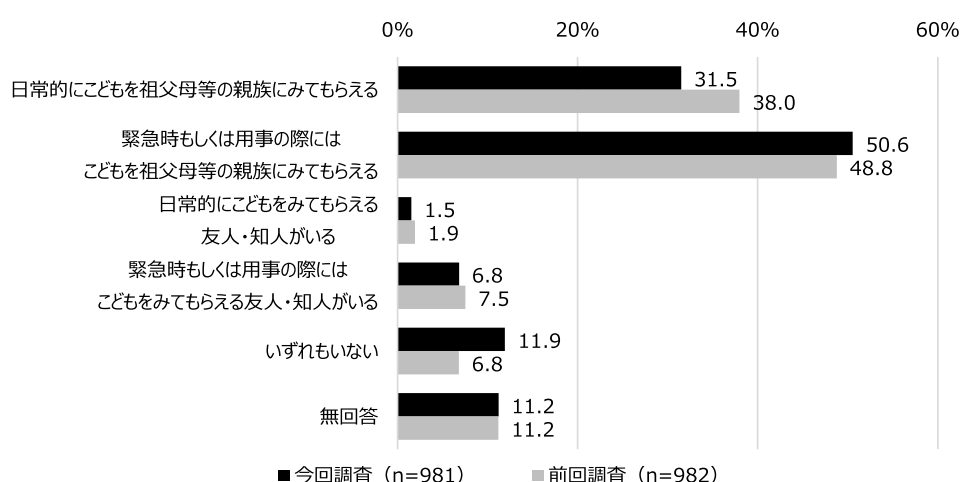
就学前保護者では「緊急時もしくは用事の際にはこどもを祖父母等の親族にみてもらえる」が54.6%、「日常的にこどもを祖父母等の親族にみてもらえる」が37.3%、「いずれもない」が8.3%。前回調査と比較すると「いずれもない」が1.5ポイント増加している。

小学生保護者では「緊急時もしくは用事の際にはこどもを祖父母等の親族にみてもらえる」が50.6%、「日常的にこどもを祖父母等の親族にみてもらえる」が31.5%、「いずれもない」が11.9%。前回調査と比較すると「日常的にこどもを祖父母等の親族にみてもらえる」が6.5ポイント減少し、「いずれもない」が5.1ポイント増加している。

▼ 就学前保護者



▼ 小学生保護者

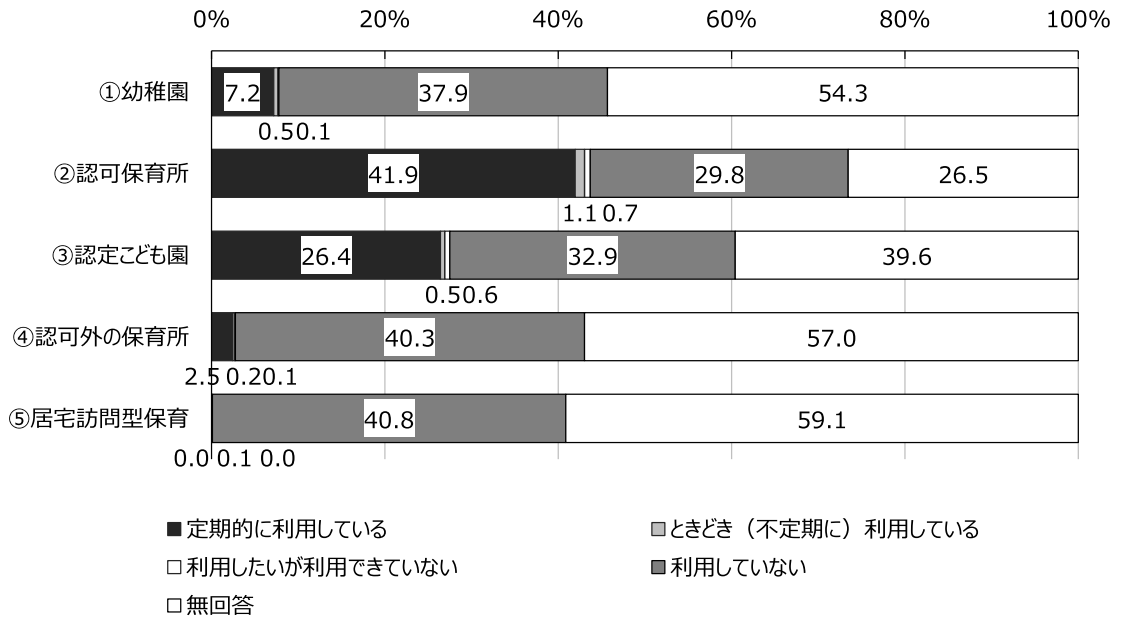


➤ こどもをみてくれる祖父母等の親族は必ずしも同居とは限らない。緊急時などでは親族以外の友人・知人を頼りたい場面も考えられるが、緊急時にみてもらえる友人・知人は就学前保護者、小学生保護者のいずれもわずかながら減少している。課題は「いずれもない」の増加である。

問 お子さんは現在、定期的に次の事業を利用していますか。

「定期的に利用している」は「②認可保育所」で41.9%、「③認定こども園」で26.4%、「①幼稚園」で7.2%。

(n=1018)



- 定期的な教育・保育の利用では、どの事業にも「利用していない」層がある。その重なりがいわゆる家庭保育の状況にある家庭となる。
- どのような家庭でも子育ての苦労や悩みはあり得るという視点から、事業利用の有無にかかわらず保護者の負担軽減や子育てに関わる課題解決を図れるよう、様々な機会を通じた各家庭へのアウトリーチが重要。

就学前保護者の育児休業取得

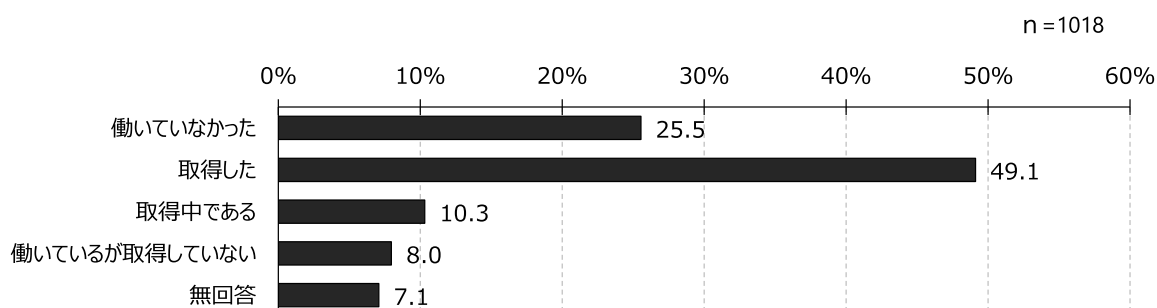
【就学前保護者】

問 お子さんが生まれたとき、育児休業を取得しましたか。

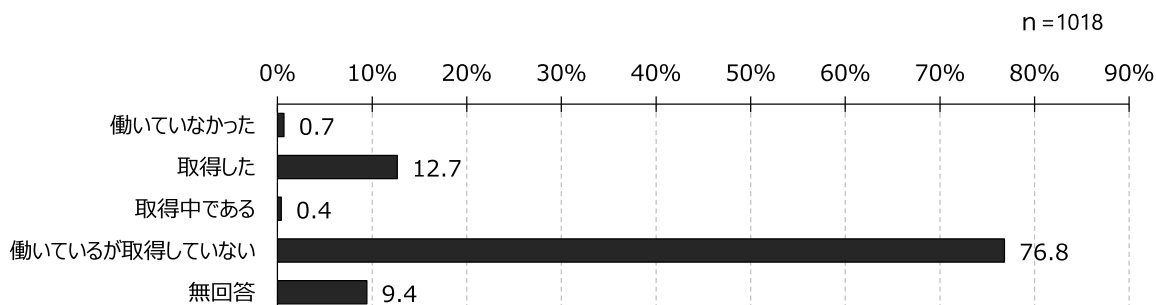
お母さんは「取得した」が49.1%、「働いていなかった」が25.5%、「取得中である」が10.3%、「働いているが取得していない」が8.0%。

お父さんは「働いているが取得していない」が76.8%、「取得した」が12.7%。

▼ お母さん



▼ お父さん



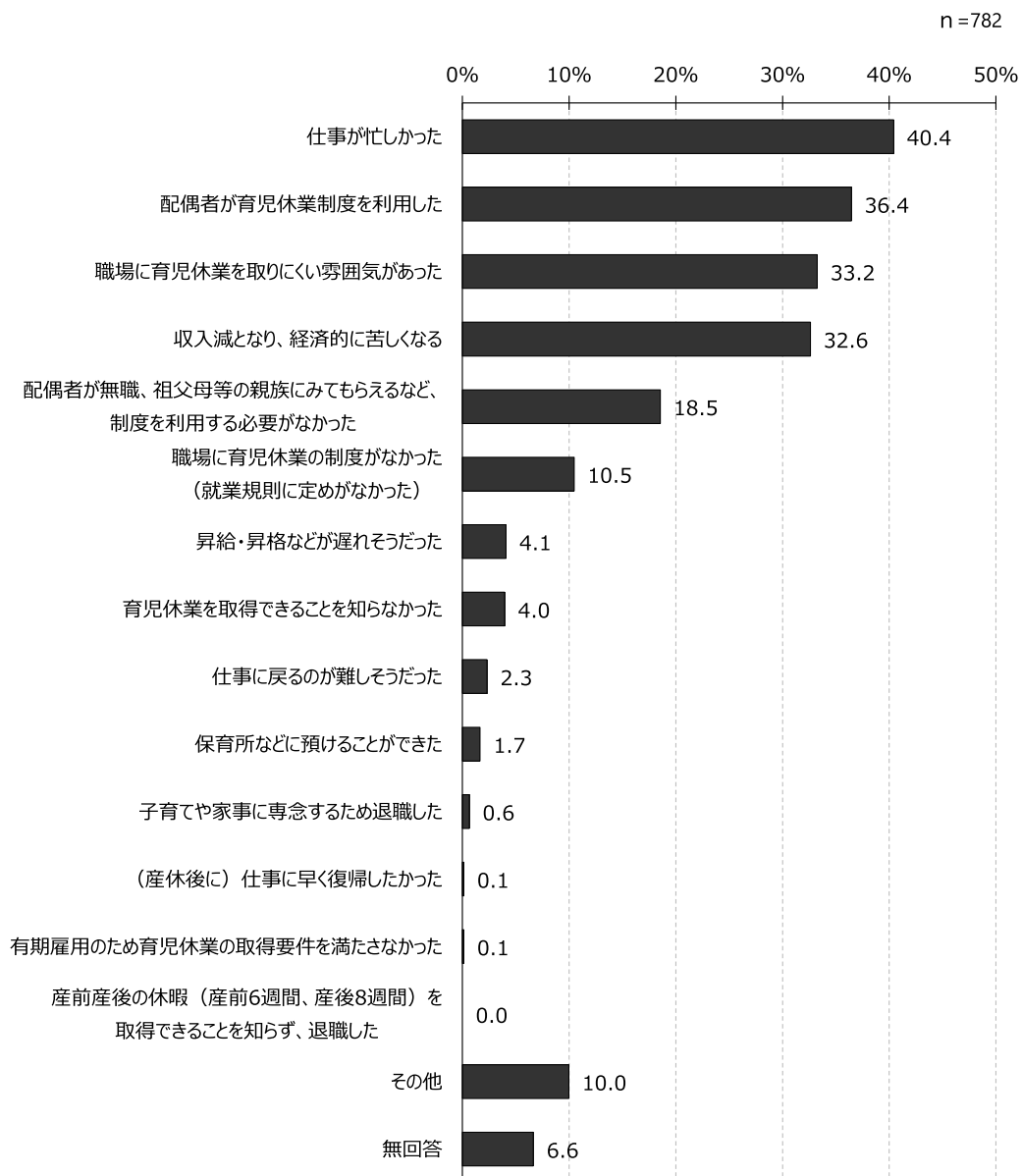
- 前述 (P50) の「子育てに関わっている人」(就学前保護者・小学生保護者) のとおり、父母が協力して子育てを行う家庭は前回調査時点で過半数となっており、今回調査でも増加した。
- しかし、フルタイムでの就労は就学前保護者でも小学生保護者でも大きな差で父親のほうが多く、上記のとおり育児休業を取得している父親は母親に比べて圧倒的に少ない。

前の質問で「働いているが取得していない」お父さん
就学前の父親が育児休業を取得していない理由

【就学前保護者】

問 育児休業を取得していない理由／お父さん

「仕事が忙しかった」が40.4%、「配偶者が育児休業制度を利用した」が36.4%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が33.2%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が32.6%、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が18.5%。



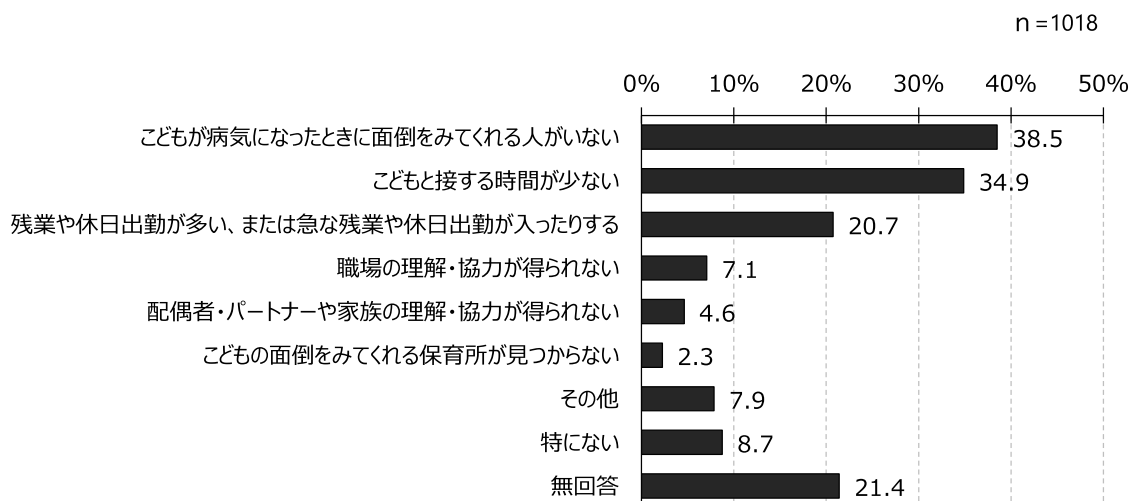
- 「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が3位となっているが、職場内の雰囲気そのものに行政が介入することには難しい面がある。
- 育児休業制度自体の事業者への普及啓発と併せて、その背景となる「父親と母親が協力しての子育て」の重要性や意義の啓発も続けていく必要がある。

子育てと仕事の両立

【就学前保護者】

問 子育てと仕事を両立させる上で大変だと感じることはどのようなことですか。

「こどもが病気になったときに面倒をみてくれる人がいない」が38.5%、「こどもと接する時間が少ない」が34.9%、「残業や休日出勤が多い、または急な残業や休日出勤が入ったりする」が20.7%。



- 「こどもが病気になったときに面倒をみてくれる人がいない」は、母親の就労の増加にもよるものと考えられる。一方、子育てに関わる父親の増加とともに、父親の育児休業取得の推進なども重要性が増してくると思われる。
- 就労の場での男女共同参画の推進は今後も図られると思われるが、同時に子育て支援においては、従来の「子育てをしている母親への支援」から「子育てをしている家庭への支援」へという視点の転換も本格的に求められることになる。

7 こどもの意見聴取（唐津市こども・若者ヒアリング～からっ子 VOICE～）

唐津市に住むこども・若者の意見を聞き、こども・若者の状況やニーズを正確に踏まえ、より実効性のある施策を検討するための取り組みとして、「唐津市こども・若者ヒアリング～からっ子 VOICE～」を実施しました。

●開催日時・場所

令和6年12月26日 唐津市役所 大手口別館 5階会議室

●参加者

市内在住の高校生：8名

●内 容

4つのテーマについて、2つのチーム「ゾンサガチーム」「ユーリチーム」に分かれてグループトークを行いました。テーマごとに2つの問いかけをして、自由に意見をもらっています。

●結果の概要

【テーマ1】こども・若者の生活について（学校、家庭等）

あなたの生活の中での楽しみ、悩み事は何ですか？

【楽しみ】

- ・学校、部活、友達と話す（学校に関する事が楽しみの中心）
- ・友達と話すこと、遊ぶこと（休み時間に友達と話したり、オンラインゲームなど）
- ・趣味（ゲーム、NPOの活動等）、ご飯を食べること
- ・その他、映画やショッピング、睡眠、お出かけなど

【悩み事】

- ・進路やテストが多いなど学業面の悩み
- ・部活で勉強時間がとれない、家に帰ったらすぐ寝てしまって勉強できない
- ・参加者には人間関係での悩みがある子はいなかった（周囲では悩んでいる友人もいる）
- ・友人が悩んでいることに共感して、一緒に悩むときもある

※忙しいこともあるけれど、それすらも楽しいと思えるので悩みはないという意見も。

楽しいこと、悩み事などがあるとき、誰によく話す？

あなたの意見や考えは、大人の人にきちんと聞いてもらえていると思う？

【話す相手】

- ・友達、部活の仲間、先生、親
- ・悩み事は親しい友達に話す、ネットで検索して自己解決する
- ・悩み事は、親にはあまり相談しないという子もいた
- ・いろんな人の意見を聴くようにしている
- ・大人には言いづらく、友達にしか話さない（大人側は受け入れてくれるが、自分が壁を感じて話せない）

※どういう悩み事だと大人に話そうと思うか質問すると、進路や、人生の先輩として答えてほしい悩みができたらするかもという意見。

【大人の人に話を聞いてもらえている？】

- ・皆、聞いてもらえていると思うと回答。（話しづらいときも、大人側から気にかけて聞いてくれる）
- ※スクールカウンセラーについて、身近な存在でなく、悩みを相談できない、利用の仕方がわからない、あえてスクールカウンセラーに相談する理由がない、などの意見。

【テーマ2】 こども・若者の遊び場、居場所について

学校が終わった後、よく居る場所や、よくしている活動は何？

- ・部活動、習い事（塾）、勉強する
- ・カフェ、カラオケ、コンビニエンスストア
- ・家で寝る、友達の家
- ・学校の近くでちょっと休憩できるところで友達と話す
- ・SNSを参考にしてハンドメイドをする など

※平日は放課後も部活動などで学校にいることが多く、自分の時間はあまりないという意見が多かった。

こんな場所があれば嬉しい、こんなイベントなどがあれば行きたい

- ・勉強する場所がいろんなところでできてほしい（今はボートレース場か市役所、図書館で勉強しているが、すぐ埋まって利用できない時がある）
- ・遊ぶ場所が欲しい
- ・以前はボウリング場があったけど、なくなってしまった…
- ・映画館（映画を見るハードルが高い、小規模なところしかなく、見たい映画がない）
- ・多くの世代が集まれる施設
- ・色んな人が集まって自由に楽器が演奏できる屋内施設
- ・道具などを貸し出してくれて、予約しなくても使える体育施設
- ・フリーマーケットなど、運営側・お客さん側の両方をやってみたい
- ・市と一緒にイベントを企画するような取り組みがあれば参加したい



【テーマ3】ヤングケアラー、貧困について

ヤングケアラーについて知っていることや、イメージは？
ヤングケアラーの支援について、何が必要だと思う？

【イメージ】

- ・眠れなさそう、大変そう、ストレスがたまりそう
- ・学生時代にしたいことができなさそう
- ・勉強面などでスタートラインが遅れそう、周囲と差がつきそう
- ・未成年で介護していたら、勉強時間など確保できない
- ・もし自分が当事者だったら友達には話せない

【必要な支援】

- ・ホットラインを設置する（匿名で電話やチャットで相談できるもの）
 - ・チャット＞電話＞対面 対面が一番相談しづらい、匿名で相談できるような取り組みが必要
 - ・訪問介護や出張介護、お手伝いさんの存在（ケアラーが自分の時間が確保できるように）
 - ・ヤングケアラー同士が繋がれる場所があれば相談しやすい（県外でも、共感が大事だから）
 - ・リモートで授業を受けられるようにした方がいい
- ※「ヤングケアラーに周囲が気付くには」と質問したところ…
- ・実態アンケートをする
 - ・そもそも、みんなが知る機会を増やす（学校の講演やCM）

こどもの貧困を解消するために必要だと思うこと

- ・ひとり親家庭への支援（貧困は相対的にひとり親家庭に多いと思うから）
- ・こども食堂（だれでも来ていいよという宣伝の仕方の方が行きやすそう）
- ・補助金制度
- ・そもそも、ひとり親を少なくする取り組み
- ・親：経済的な支援
- ・子：学習支援（貧困のループを打ち消すため、地域の学生ボランティアによる支援）
- ・小さい子がいて働けないとかなら、保育所などのこどもを預けることができる施設の充実や拡充



【テーマ4】唐津市について

「唐津」の好きなところや、これからも大切にしたいこと

- ・虹の松原（虹の松原の保全のために活動している団体が多くいて、自然環境を大切にしていこうとしているところも好き）
 - ・田舎すぎず、都会すぎないところ
 - ・地理的な位置（福岡市にも、佐賀市にも行きやすい）
 - ・イカ
 - ・唐津くんち
 - ・自然が多い、空気がおいしい、山と海が近い
 - ・人と人のつながりが深い
- ※皆が共感していた意見として「何よりもご飯がおいしい、魚がおいしい」「福岡から近い」など

「唐津」の「ここ」がもっと「こう」になったら良い、嬉しい

- ・遊ぶところが増えてほしい、唐津の遊ぶところ（チャンネルシティみたいな大型商業施設）
 - ・コスメ産業に力を入れる
 - ・虹の松原など観光資源をアピールする
 - ・旧市街地外に行くためのインフラ整備
 - ・駅周辺の活性化
 - ・みんなが集まる場所を組み込んだ商店街みたいなところ（いろんな人が集まれるし、食べ歩きもできるし楽しい場所）
 - ・イベント（花火や唐津くんち）の時に電車の本数が増えたらいい
 - ・中心地以外の活性化（飲食店など気軽に行けるところが少ない）
 - ・中心地以外の交通網、電車ないしバスは本数が少なくて便が悪い
 - ・朝の渋滞解消（松浦橋）
 - ・通学路のカーブミラー、小さい道など危ないと感じるところがある
- ※「どうやったら、大人になっても住み続けたいと思えるか」と質問したところ…
- ・働く場所が増えたら戻ってきたいと思えるかも
 - ・学生の時に唐津について学ぶ機会を与えることで、唐津に愛着がわき唐津に住み続けたいと思える
 - ・車があれば住みやすいまち
 - ・住みたいと思うけど、進学等した後に戻ってくるか微妙
 - ・車がないと生きていけないのが不満、交通の便が悪い
 - ・都会より不便、都会に住みたい
 - ・老後に住みたい、若いときは刺激がない



8 こどもの将来人口推計

住民基本台帳の人口実績を基に将来人口を推計しました。¹

0～17歳の人口は令和6年の18,203人から継続的に減少となり、本計画の終期となる令和11年には16,083人となる見込みです。

年齢	本計画の計画期間									
	実績					推計				
	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年	令和 8年	令和 9年	令和 10年	令和 11年
0歳	862	845	807	751	677	748	736	725	713	703
1歳	944	883	861	818	771	688	761	748	737	724
2歳	949	946	882	855	825	774	691	763	752	740
3歳	1,019	960	944	877	854	825	775	691	765	752
4歳	1,037	1,023	968	932	872	853	824	773	690	762
5歳	1,068	1,036	1,015	964	936	873	854	825	774	691
6歳	1,076	1,070	1,034	1,014	967	935	872	853	822	773
7歳	1,077	1,074	1,067	1,042	1,005	967	935	873	853	823
8歳	1,152	1,084	1,074	1,067	1,043	1,004	967	934	872	852
9歳	1,129	1,149	1,086	1,073	1,065	1,043	1,004	967	934	871
10歳	1,125	1,129	1,144	1,091	1,079	1,070	1,048	1,009	971	939
11歳	1,232	1,125	1,128	1,155	1,091	1,082	1,073	1,050	1,011	974
12歳	1,173	1,230	1,122	1,131	1,152	1,091	1,082	1,073	1,051	1,011
13歳	1,197	1,168	1,236	1,129	1,128	1,153	1,092	1,083	1,074	1,052
14歳	1,164	1,196	1,169	1,235	1,134	1,131	1,156	1,095	1,086	1,077
15歳	1,220	1,150	1,194	1,166	1,232	1,131	1,127	1,153	1,092	1,083
16歳	1,234	1,239	1,159	1,206	1,165	1,239	1,136	1,134	1,159	1,097
17歳	1,222	1,231	1,236	1,155	1,207	1,165	1,237	1,135	1,132	1,159
0-17歳 計	19,880	19,538	19,126	18,661	18,203	17,772	17,370	16,884	16,488	16,083

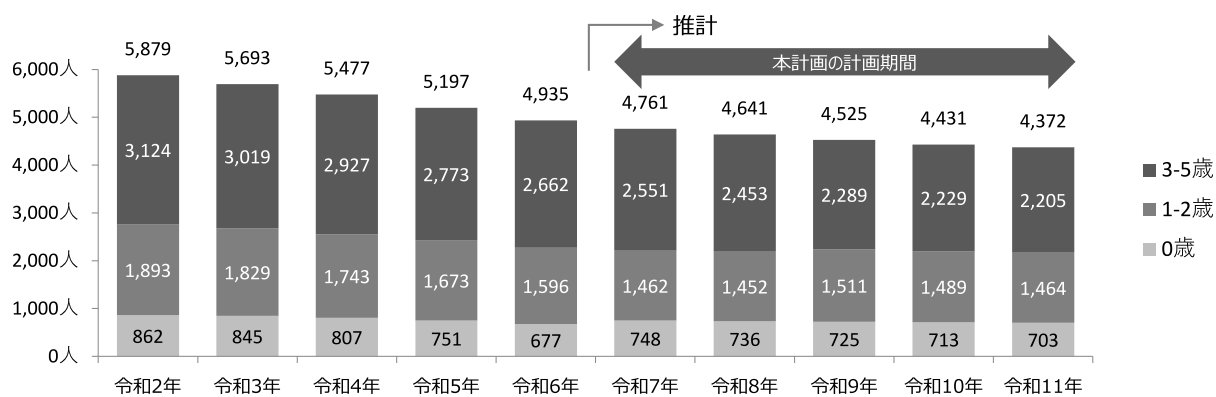
(単位：人)

※令和2～6年：住民基本台帳（各年4月1日）

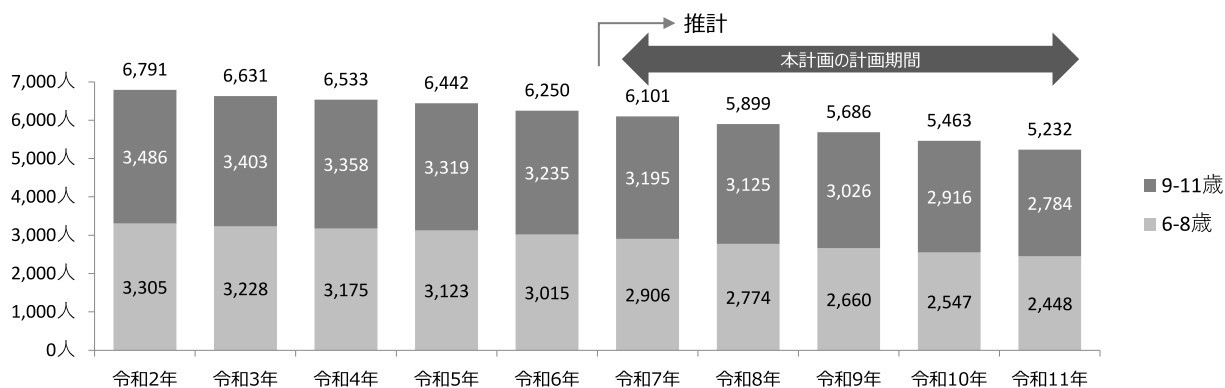
※令和7年～11年：推計値

¹ 住民基本台帳平成30年～令和6年（各年4月1日）実績からコーホート変化率法により推計。出生率は唐津市令和4年の期間TFR値(1.620)が令和11年1.647に向けて上昇すると仮定し、変化率はコロナ禍における一時的変動を考慮した上での実績の平均値としている。

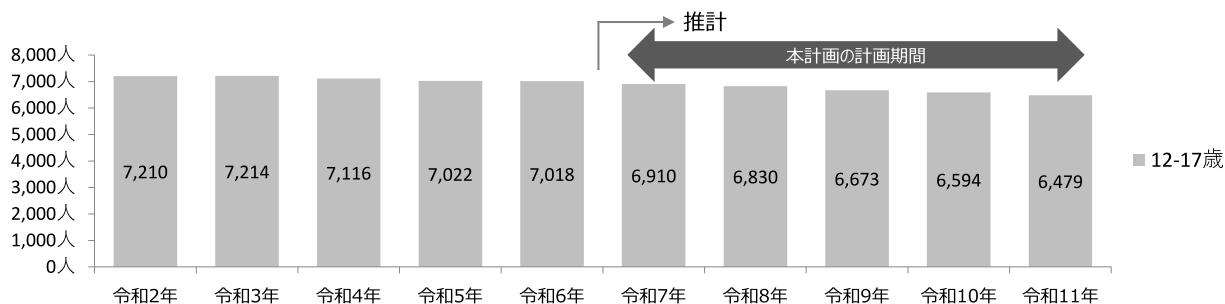
▼ 0歳～5歳のこどもの数（実績および将来人口推計）



▼ 6歳～11歳のこどもの数（実績および将来人口推計）



▼ 12歳～17歳のこどもの数（実績および将来人口推計）



9 唐津市における課題

こども・子育てを取り巻く環境、市民等アンケート調査の結果などから、唐津市のこどもや子育て家庭を取り巻く課題を次のようにまとめます。

妊娠・出産における母子の健康確保と保護者の不安の解消

唐津市の出生数は令和3年に一旦増加しましたが、総じて減少傾向で推移しています。出生率も総じて下降傾向で推移しています。

就学前保護者、小学生保護者の調査による、「お子さんを出産した後で困ったこと」では、「困ったことは特になかった」が最も多くなっていましたが、就学前保護者では「子育てが不安になった」が31.0%、「自分の体調がよくなかった」が26.3%、小学生保護者では「子育てが不安になった」が31.8%、「家事を手伝ってくれる人がいなかった」と「自分の体調がよくなかった」が21.2%となっています。

少子化対策の一つとして出生を増加させていくためには、母子の健康づくりと妊娠・出産に関わる不安が解消されるような取り組みが重要です。初めての出産となる妊婦をはじめ、これから親になる全ての男女が不安を感じることなく安心して妊娠・出産やその後の育児に臨めるよう、こどもや母親の健康を守る取り組み、妊娠・出産に関する様々な相談に対応する体制づくりが重要です。

全てのこどもの権利擁護とすこやかな成長

小学5年生、中学2年生の調査では、こどもの主観的健康観、朝食の摂取状況、主観的な成績など、健康や学習に関連する事柄に家庭の経済的な状況が影響をおよぼしていることがうかがえました。

就学前保護者、小学生保護者の調査による、「子育てにかかる経済的な負担を感じるか」では、就学前保護者、小学生保護者のいずれでも「よく感じる」が前回調査より増加していました。小学5年生保護者・中学2年生保護者の調査における同様の質問では、経済的状況のよくない家庭ほど子育てにかかる経済的な負担を強く感じていることがわかりました。

小学5年生、中学2年生の調査による、「同じくらいの年れいのこどもからは、だいたいは好かれている」と思うかでは、いずれの学年でも「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」が、経済的状況のよくない家庭において全体より多くなっていました。

また、18歳未満の障がい者手帳所持者数、外国人のいる世帯数は、いずれも増加傾向です。小・中学校における不登校児童・生徒数の割合についても上昇傾向にあり、全国および佐賀県より高い水準で推移しています。これらのことから、配慮が必要なこどもの割合が上昇していると考えられます。

家庭環境やこども一人ひとりの個性によらず権利が守られ、その最善の利益が尊重されることは、こどもの健全な成長の大前提です。それらが確保されることで、こどもの自己評価・自己肯定感も高くなっていくと考えられます。

家庭や学校、地域社会が、こどもの権利を守るという視点に立ってそのすこやかな成長を支えていく取り組みとともに、こどもたち自身も自らの権利について理解を深められるよう図ることが重要です。

多様な教育・保育ニーズへの対応

女性の就労状況では、20歳代後半以降の各年齢層とも労働力率が上昇し、結婚・出産・子育て期と考えられる女性の就労が増えています。

就学前保護者調査による、母親の就労状況では、「フルタイムで就労している」が約46%、「パート・アルバイト等で就労している」が約30%となっています。

就学前保護者、小学生保護者の調査による、「子育て（教育を含む）を主に行っている方」では、就学前保護者、小学生保護者のいずれでも「父母ともに」が6割前後で最も多く、前回調査より増加しており、父母が協力しての子育てが増えていることがわかります。

また、世帯数は総じて増加の傾向にあるものの総人口は減少が続いており、1世帯あたり人員は継続的に減少しています。

就学前保護者、小学生保護者の調査による、「日頃、こどもをみてもらえる親族や知人等の有無」では、「いずれもない」との回答が就学前保護者で約8%、小学生保護者で約12%みられ、就学前保護者、小学生保護者のいずれでも前回調査より増加しています。

保護者の就労状況や、男女の子育てへの関わり方、親族・知人による子育て支援など、こどもと子育て家庭を取り巻く状況は変化しており、定期的な教育・保育を利用している場合でも、家庭で教育・保育を行っている場合でも、教育・保育に対するニーズは多様化しています。

一時預かりや延長保育、あるいは乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）など、幼稚園、保育園、認定こども園等による教育・保育の提供を引き続き充実し、多様なニーズへの対応を図ることが重要です。